

# 編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
107-101	高等学校	地理歴史科	世界史探究	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教科書名		

## 1. 編修の基本方針

教育基本法第2条第1号「幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。」に留意した点

- ・「幅広い知識と教養を身に付ける」ことができるよう、各時代・各地域・各分野の事項を幅広く取り上げ、背景や因果関係についても丁寧な記述を心がけた。また、世界史の大きな枠組みや展開を構造的に捉えられるような記述とし、その一助として第Ⅰ部～第Ⅲ部の終わりに「まとめ」を設けた。
- ・「真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培う」ことができるよう、章・節・小見出しごとに「問い」を設けて学習の目的を明確にし、深い理解をうながすとともに、主体的・多面的な考察の一助として様々な図版や文字史料を取り上げた。また、19章の囲み記事「現代世界への視点」では、現代の諸課題の理解やその解決に向けた考察に資する内容を取り上げた。

教育基本法第2条第2号「個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。」に留意した点

- ・「個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う」ことができるよう、第Ⅰ部～第Ⅲ部冒頭の「第〇部を学ぶ前に」において、諸資料を用いて生徒の興味・関心を喚起し、学習内容を構造的に理解する視点を提示するとともに、生徒が自身で「問い」を立てる課題を設定した。第Ⅳ部「地球世界の課題の探究」では、主体的な探究活動の一例を示した。また、ジェンダーの考え方を取り上げるなどして、多様な個人の在り方への理解が深まるようにも配慮した。
- ・「職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと」ができるよう、「世界史へのまなざし② 日常生活からみる世界の歴史」において、砂糖とコーヒー、余暇、家族を事例に日々の生活と世界史との密接な関わりについて取り上げた。また、第Ⅰ部を通して生業と社会の関係について記述するとともに、産業革命期の労働者とその生活、20世紀以降の女性の権利拡大などについても取り上げ、世界史の流れのなかで職業や勤労について考察できるような記述とした。

教育基本法第2条第3号「正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。」に留意した点

- ・「正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずる」ことができるよう、各時代における様々な個人・集団間の対立および協調、統治や社会参加のあり方、人権・格差の問題とそれへの取り組みなどを記述し、その考察に資する諸資料も取り上げた。
- ・「公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと」ができるよう、19章において、国際連合や非政府組織の活動をはじめとする国際的な協力の重要性、20世紀以降の女性の権利拡大、ジェンダーの考え方なども取り上げた。

**教育基本法第2条第4号「生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと。」に留意した点**

- ・「生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと」ができるよう、「世界史へのまなざし① 地球環境からみる人類の歴史」において、地球カレンダーを併用するなどして地球や生命の成り立ちを取り上げた。また、気候変動などが人類に与える影響について事例とともに記述し、自然環境の変化に対する問題意識が高まるように留意した。
- ・第4部では、近代化による人口増加や環境問題、核開発や原子力発電をめぐる問題、さらに環境問題に対する国際的な取り組みについて記述し、現代の諸課題に取り組む態度を養えるように留意した。

**教育基本法第2条第5号「伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。」に留意した点**

- ・「伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する」ことができるよう、各時代における日本と世界の国々との政治・経済・社会・文化面での多様かつ密接な関係や、わが国の伝統・文化が形成された歴史的経緯について、世界史の視点から記述した。
- ・「他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと」ができるよう、各章で集団・国家間の多様な協調のあり方や国際秩序の形成について記述した。また19章では国際連合の活動などを取り上げ、国際社会の平和と発展に向けた諸課題について主体的に考察できるような記述とした。

## 2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
世界史を学ぶみなさんへ 世界史へのまなざし① 地球環境からみる人類の歴史 自然環境と人類の進化	*「世界史へのまなざし①」では、地球カレンダーを併用するなどして地球や生命の成り立ちを説明するとともに、自然環境の変化が人類の歴史に及ぼす影響も記述し、環境問題について課題意識を持つことができるようにした（第4号）。	p. 4～7
世界史へのまなざし② 日常生活からみる世界の歴史 砂糖とコーヒーからみる世界の歴史 余暇からみえる現代世界 歴史のなかの家族	*「世界史へのまなざし②」では、砂糖とコーヒー、余暇、家族を事例に日々の生活と世界史との関わりについて取り上げ、我々の生活様式の世界史的な経緯について気付くことができるようにした（第2号）。	p. 8～14

<p>第Ⅰ部 諸地域の歴史的特質の形成</p> <p>第Ⅰ部を学ぶ前に</p> <p>第1章 文明の成立と古代文明の特質</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 文明の誕生</li> <li>2 古代オリエント文明とその周辺</li> <li>3 南アジアの古代文明</li> <li>4 中国の古代文明</li> <li>5 南北アメリカ文明</li> </ol> <p>第2章 中央ユーラシアと東アジア世界</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 中央ユーラシア——草原とオアシスの世界</li> <li>2 秦・漢帝国</li> <li>3 中国の動乱と変容</li> <li>4 東アジア文化圏の形成</li> </ol> <p>第3章 南アジア世界と東南アジア世界の展開</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 仏教の成立と南アジアの統一国家</li> <li>2 インド古典文化とヒンドゥー教の定着</li> <li>3 東南アジア世界の形成と展開</li> </ol> <p>第4章 西アジアと地中海周辺の国家形成</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 イラン諸国家の興亡とイラン文明</li> <li>2 ギリシア人の都市国家</li> <li>3 ローマと地中海支配</li> <li>4 キリスト教の成立と発展</li> </ol> <p>第5章 イスラーム教の成立とヨーロッパ世界の形成</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 イスラーム教とイスラーム政権の成立</li> <li>2 ヨーロッパ世界の形成</li> </ol> <p>第Ⅰ部まとめ</p>	<p>*「第Ⅰ部を学ぶ前に」で、生徒の興味・関心を喚起するような諸資料を取り上げるとともに、第Ⅰ部の学習内容を構造的に理解する視点を提示した。また、生徒自らが「問い」を立てる課題を設定した(第2号)。</p> <p>*第1章では、まず第1節で文明の誕生を簡潔に記述し、第2節～第5節において各地域の古代文明を並列して記述することで、構造的に学習内容を捉えたり、比較できるようにした(第1号)。</p> <p>*古代オリエント、南アジア、東アジア、南北アメリカ、中央ユーラシア、東南アジア、ヨーロッパの各地域について、風土や生業、その社会などについて簡潔に記述した(第2号)。</p> <p>*第Ⅰ部を通して、政治・経済・社会・文化など広範な内容に関わる文字史料を取り上げて、学習の一助とした(第1号、第3号)。</p> <p>*世界史上での日本と近隣諸国との関わりや文化の伝播について記述した(第5号)。</p> <p>*「第Ⅰ部まとめ」を設け、世界史の枠組みやその展開を構造的に理解する一助とした(第1号)。</p>	<p>p.16～17</p> <p>p.18～36</p> <p>p.20～21、 28、30～31、 35、37～38、 60、91～92</p> <p>p.22、25、 33、39、42、 45、49、57、 70、79、86、 96、101</p> <p>p.33、43、 47、50、56、 65</p> <p>p.102</p>
<p>第Ⅱ部 諸地域の交流・再編</p> <p>第Ⅱ部を学ぶ前に</p> <p>第6章 イスラーム教の伝播と西アジアの動向</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 イスラーム教の諸地域への伝播</li> <li>2 西アジアのイスラーム諸政権</li> </ol> <p>第7章 ヨーロッパ世界の変容と展開</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 西ヨーロッパの封建社会とその展開</li> <li>2 東ヨーロッパ世界の展開</li> <li>3 西ヨーロッパ世界の変容</li> <li>4 西ヨーロッパの中世文化</li> </ol> <p>第8章 東アジア世界の展開とモンゴル帝国</p>	<p>*「第Ⅱ部を学ぶ前に」で、生徒の興味・関心を喚起するような資料を取り上げるとともに、第Ⅱ部の学習内容を構造的に理解する視点を提示した。また、生徒自らが「問い」を立てる課題を設定した(第2号)。</p> <p>*第Ⅱ部では、ユーラシア大陸の東西にまたがる交易の拡大やネットワークの結合、各地域における火器の使用、ユーラシア大陸と南北アメリカ大陸間でおこなわれた文物の交換などを取り上げることで、グローバルな視点や構造的な視点で世</p>	<p>p.104～105</p> <p>p.106～201</p>

<p>1 アジア諸地域の自立化と宋</p> <p>2 モンゴルの大帝国</p> <p>第9章 大交易・大交流の時代</p> <p>1 アジア交易世界の興隆</p> <p>2 ヨーロッパの海洋進出とアメリカ大陸の変容</p> <p>第10章 アジア諸帝国の繁栄</p> <p>1 オスマン帝国とサファヴィー朝</p> <p>2 ムガル帝国の興隆</p> <p>3 清代の中国と隣接諸地域</p> <p>第11章 近世ヨーロッパ世界の動向</p> <p>1 ルネサンス</p> <p>2 宗教改革</p> <p>3 主権国家体制の成立</p> <p>4 オランダ・イギリス・フランスの台頭</p> <p>5 北欧・東欧の動向</p> <p>6 科学革命と啓蒙思想</p> <p>第Ⅱ部まとめ</p>	<p>界史の展開が捉えられるようにした（第1号）。</p> <p>* 第Ⅱ部を通して、政治・経済・社会・文化など広範な内容に関わる文字史料を取り上げて、学習の一助とした（第1号、第3号）。</p> <p>* 世界史上での日本と近隣諸国との関わりや文化の伝播について記述した（第5号）。</p> <p>* 「第Ⅱ部まとめ」を設け、世界史の枠組みやその展開を構造的に理解する一助とした（第1号）。</p>	<p>p.106、115、129、133、140、147、149、153、160、164、169、181、192</p> <p>p.137～138、140～143、146、150、152～157、172～173、189</p> <p>p.202</p>
<p>第Ⅲ部 諸地域の結合・変容</p> <p>第Ⅲ部を学ぶ前に</p> <p>第12章 産業革命と環大西洋革命</p> <p>1 産業革命</p> <p>2 アメリカ合衆国の独立と発展</p> <p>3 フランス革命とナポレオンの支配</p> <p>4 環大西洋革命とラテンアメリカ諸国の独立</p> <p>第13章 イギリスの優位と欧米国民国家の形成</p> <p>1 ウィーン体制とヨーロッパの政治・社会の変動</p> <p>2 列強体制の動揺とヨーロッパの再編成</p> <p>3 アメリカ合衆国の発展</p> <p>4 19世紀欧米文化の展開と市民文化の繁栄</p> <p>第14章 アジア諸地域の動揺</p> <p>1 西アジア地域の変容</p> <p>2 南アジア・東南アジアの植民地化</p> <p>3 東アジアの激動</p> <p>第15章 帝国主義とアジアの民族運動</p> <p>1 第2次産業革命と帝国主義</p> <p>2 列強の世界再分割と列強体制の二分化</p>	<p>* 「第Ⅲ部を学ぶ前に」で、生徒の興味・関心を喚起するような資料を取り上げるとともに、第Ⅲ部の学習内容を構造的に理解する視点を提示した。また、生徒自らが「問い」を立てる課題を設定した（第2号）。</p> <p>* 産業革命期の労働者とその生活、20世紀以降の女性の権利拡大などを取り上げることで、世界史の流れのなかで職業や勤労について捉えることができるようにした（第2号）。</p> <p>* 第Ⅲ部を通して、政治・経済・社会・文化など広範な内容に関わる文字史料を取り上げて、学習の一助とした（第1号、第3号）。</p> <p>* 世界史上での日本と世界各国との関わりについて記述した（第5号）。</p>	<p>p.204～205</p> <p>p.207～208、223～224、258、281～282</p> <p>p.211、213、224、245、252、259、271、283、284、293、299、305、312、318</p> <p>p.237、255～257、271～</p>

<p>3 アジア諸国の変革と民族運動</p> <p>第16章 第一次世界大戦と世界の変容</p> <p>1 第一次世界大戦とロシア革命</p> <p>2 ヴェルサイユ体制下の欧米諸国</p> <p>3 アジア・アフリカ地域の民族運動</p> <p>第17章 第二次世界大戦と新国際秩序の形成</p> <p>1 世界恐慌とヴェルサイユ体制の破壊</p> <p>2 第二次世界大戦</p> <p>3 新国際秩序の形成</p> <p>第Ⅲ部まとめ</p>	<p>*「第Ⅲ部まとめ」を設け、世界史の枠組みやその展開を構造的に理解する一助とした(第1号)。</p>	<p>273、292～ 295、304～ 306、310～ 313、315、 319</p> <p>p.322</p>
<p>第Ⅳ部 地球世界の課題</p> <p>第18章 冷戦と第三世界の台頭</p> <p>1 冷戦の展開</p> <p>2 第三世界の台頭とキューバ危機</p> <p>3 冷戦体制の動揺</p> <p>第19章 冷戦の終結と今日の世界</p> <p>1 産業構造の変容</p> <p>2 冷戦の終結</p> <p>3 今日の世界</p> <p>4 現代文明の諸相</p> <p>地球世界の課題の探究</p>	<p>* 囲み記事「現代世界への視点」で、「現代の政治・社会と宗教——イスラーム主義」「国際連合とその活動」「飢餓とその克服に向けた取り組み」「ジェンダーの考え方と両性の平等化への課題」を取り上げ、現代の課題を考察する一助とした(第1号)。</p> <p>* 両性の平等化の歴史的経緯や、ジェンダーの考え方を取り上げることにより、多様な個人の在り方への理解や人権・格差の問題に対する考察の一助とした(第2号、第3号)。</p> <p>* 人口増加や経済成長による環境問題、核開発や原子力発電をめぐる問題、さらに環境問題に対する国際的な取り組みについて記述し、現代の諸課題に取り組む態度を養えるようにした(第4号)。</p> <p>* 「地球世界の課題の探究」で、主体的に学習内容を探究する活動の一例を示した(第2号)。</p>	<p>p.352、357、 360、363</p> <p>p.362～363</p> <p>p.325、339～ 340、358～ 360</p> <p>p.364～365</p>

### 3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

- ・地図・グラフの作成においては、カラーユニバーサルデザインに則り、色覚特性のある生徒にも読みやすい配色や線種を使用した。
- ・本文やキャプションで使用した文字のフォントについては、文字のかたちがわかりやすく、読み間違いがおこりにくいユニバーサルデザインに対応した「UD書体」を採用した。
- ・より深い学びにつなげるため、インターネット上に教科書ポータルサイトを設け、世界史学習のうえで一般的な用語や、重要年代と事項を確認できる年表、学習に役立つ史料・図版、部ごとのまとめの「問い」および解答例などを参照できるようにした。

# 編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
107-101	高等学校	地理歴史科	世界史探究	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教科書名		

## 1. 編修上特に意を用いた点や特色

### A 世界史の大きな枠組みと展開を体系的に学ぶことのできる教科書

#### ●分野・時代・地域のバランスがとれた丁寧な叙述

- ・標準単位数3単位での授業を前提としつつ、現代世界やその諸課題がいかに形成されてきたかを、政治・経済・社会・文化の幅広い分野にわたって、時代・地域もバランスよく記述した。
- ・記述にあたっては、社会的・歴史的な事象がどのように発生したかや、それらの事象を構造的な視点からも理解できるよう、背景や因果関係、さらにその評価について丁寧な記述を心がけた。
- ・日本史との関連について、各時代における日本と世界の国々との政治・経済・社会・文化面での多様かつ密接な関係を記述した。また、火器の使用を一例とすると、織田信長や豊臣秀吉が火器を用いて日本の統一を進めたこと(p.156)を記述するとともに、同時期のヨーロッパ(p.178)・西アジア(p.162)・南アジア(p.166)・東アジアおよび中央ユーラシア(p.169)・南北アメリカ(p.160)などにおいても火器の使用について記述し、こうした各時代における日本も含めた世界史的な動きについても気付くことができるようにした。

#### ●近年の研究成果にもとづいた叙述

- ・近年の歴史学研究成果にもとづいて記述をおこなった。とくに、騎馬遊牧民と中国王朝とが相互に与えた影響など中央ユーラシアと東アジアとの関係、ルネサンスの位置づけや意義をはじめとする近世・近代のヨーロッパの捉え方、20世紀を通じた諸事象のグローバルなつながりなどに、近年の研究の知見を多く盛りこんだ。
- ・第IV部では、環境問題や気候変動への取り組み、グローバル化とそれにともなう経済や格差の問題、国際連合や非政府組織をはじめとする国際的な活動・協力の重要性、両性の平等化への取り組みやジェンダーの考え方の登場など、近年の動きや研究成果も踏まえて、広く現代世界とその諸課題について記述した。さらに、囲み記事「現代世界への視点」を設け、「現代の政治・社会と宗教——イスラーム主義」(p.352)、「国際連合とその活動」(p.357)、「飢餓とその克服に向けた取り組み」(p.360)、「ジェンダーの考え方と両性の平等化への課題」(p.363)など、諸課題の理解やその解決に向けた考察に資する内容を取り上げた。

### ●豊富な図版・文字史料、教科書ポータルサイトの設置

- ・歴史的な見方・考え方を多面的に深める一助として、約 600 点の図版や、約 100 点の図表・文字史料を掲載した。
- ・また、日々の学習の補助やさらなる探究活動を想定して教科書ポータルサイトを設置し、世界史学習のうえで一般的な用語や、重要年代と事項を確認できる年表、学習に役立つ史料・図版、部ごとのまとめの「問い」および解答例などを参照できるようにした。

## B 主体的・対話的で深い学びをめざして

### ●「問い」の設置

- ・本書の章・節・小見出しごとに「問い」を全面的に設け、学習目的を明確にするとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するための一助とした。

### ●「第〇部を学ぶ前に」

- ・第Ⅰ部～第Ⅲ部の冒頭に「第〇部を学ぶ前に」（p.16～17、104～105、204～205）を設け、諸資料を用いて生徒の興味・関心を喚起するとともに、学習内容を構造的に理解・考察するための視点を提示した。また、生徒自らが「問い」を立てる課題も設定した。

### ●「まとめ」と「地球世界の課題の探究」

- ・第Ⅰ部～第Ⅲ部の終わりに「まとめ」（p.102、202、322）、ならびに付属する問いを設け、世界史の大きな枠組みやその展開を構造的に理解するための一助とした。
- ・第Ⅳ部「地球世界の課題の探究」（p.364～365）では、不戦条約を取り上げて、主体的に学習内容を探究する活動の一例を示した。

## C 学習にあたっての配慮

- ・「自由主義」「保守主義」「ナショナリズム」「権威主義」などの概念的な用語には、できうるかぎり側注で解説を加えた。
- ・同時代・同地域の関連をわかりやすくしたり、学習内容の予習・復習に資するため、参照頁を丁寧に入れることを心がけた。
- ・地図・グラフの作成においては、カラーユニバーサルデザインに則り、色覚特性のある生徒にも読みやすい配色や線種を使用した。
- ・本文やキャプションで使用した文字のフォントについては、文字のかたちがわかりやすく、読み間違いがおこりにくいユニバーサルデザインに対応した「UD書体」を採用した。

## 2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当 時数
世界史を学ぶみなさんへ			
世界史へのまなざし① 地球環境からみる人類の歴史 自然環境と人類の進化	A 世界史へのまなざし (1) 地球環境から見る人類の歴史	p.4～7	1
世界史へのまなざし② 日常生活からみる世界の歴史 砂糖とコーヒーからみる世界の歴史 余暇からみえる現代世界 歴史のなかの家族	(2) 日常生活から見る世界の歴史	p.8～14	1
第Ⅰ部 諸地域の歴史的特質の形成	B 諸地域の歴史的特質の形成	p.15	
第Ⅰ部を学ぶ前に	(1) 諸地域の歴史的特質への問い	p.16～17	1
第1章 文明の成立と古代文明の特質	(2) 古代文明の歴史的特質	p.18～36	4
1 文明の誕生			
2 古代オリエント文明とその周辺			
3 南アジアの古代文明			
4 中国の古代文明			
5 南北アメリカ文明			
第2章 中央ユーラシアと東アジア世界	(3) 諸地域の歴史的特質	p.37～102	5
1 中央ユーラシア——草原とオアシスの世界			
2 秦・漢帝国			
3 中国の動乱と変容			
4 東アジア文化圏の形成			
第3章 南アジア世界と東南アジア世界の展開			3
1 仏教の成立と南アジアの統一国家			
2 インド古典文化とヒンドゥー教の定着			
3 東南アジア世界の形成と展開			
第4章 西アジアと地中海周辺の国家形成			6
1 イラン諸国家の興亡とイラン文明			
2 ギリシア人の都市国家			
3 ローマと地中海支配			
4 キリスト教の成立と発展			
第5章 イスラーム教の成立とヨーロッパ世界の形成			4
1 イスラーム教の成立とイスラーム政権の成立			
2 ヨーロッパ世界の形成			
第Ⅰ部まとめ			

第Ⅱ部 諸地域の交流・再編	C 諸地域の交流・再編	p.103	
第Ⅱ部を学ぶ前に	(1) 諸地域の交流・再編への問い	p.104～105	1
第6章 イスラーム教の伝播と西アジアの動向	(2) 結び付くユーラシアと諸地域	p.106～161	3
1 イスラーム教の諸地域への伝播			
2 西アジアのイスラーム諸政権			
第7章 ヨーロッパ世界の変容と展開			6
1 西ヨーロッパの封建社会とその展開			
2 東ヨーロッパ世界の展開			
3 西ヨーロッパ世界の変容			
4 ヨーロッパの中世文化			
第8章 東アジア世界の展開とモンゴル帝国			3
1 アジア諸地域の自立化と宋			
2 モンゴルの大帝国			
第9章 大交易・大交流の時代			4
1 アジア交易世界の興隆			
2 ヨーロッパの海洋進出とアメリカ大陸の変容			
第10章 アジア諸帝国の繁栄	(3) アジア諸地域とヨーロッパの再編	p.162～202	3
1 オスマン帝国とサファヴィー朝			
2 ムガル帝国の興隆			
3 清代の中国と隣接諸地域			
第11章 近世ヨーロッパ世界の動向			7
1 ルネサンス			
2 宗教改革			
3 主権国家体制の成立			
4 オランダ・イギリス・フランスの台頭			
5 北欧・東欧の動向			
6 科学革命と啓蒙思想			
第Ⅱ部まとめ			
第Ⅲ部 諸地域の結合・変容	D 諸地域の結合・変容	p.203	
第Ⅲ部を学ぶ前に	(1) 諸地域の結合・変容への問い	p.204～205	1
第12章 産業革命と環大西洋革命	(2) 世界市場の形成と諸地域の結合	p.206～257	5
1 産業革命			
2 アメリカ合衆国の独立と発展			
3 フランス革命とナポレオンの支配			
4 環大西洋革命とラテンアメリカ諸国の独立			
第13章 イギリスの優位と欧米国民国家の形成			7
1 ウィーン体制とヨーロッパの政治・社会の変動			
2 列強体制の動揺とヨーロッパの再編成			

3 アメリカ合衆国の発展			
4 19世紀欧米文化の展開と市民文化の繁栄			
第14章 アジア諸地域の動揺			5
1 西アジア地域の変容			
2 南アジア・東南アジアの植民地化			
3 東アジアの激動			
第15章 帝国主義とアジアの民族運動	(3) 帝国主義とナショナリズムの高揚	p.258～299	7
1 第2次産業革命と帝国主義			
2 列強の世界再分割と列強体制の二分化			
3 アジア諸国の変革と民族運動			
第16章 第一次世界大戦と世界の変容			6
1 第一次世界大戦とロシア革命			
2 ヴェルサイユ体制下の欧米諸国			
3 アジア・アフリカ地域の民族運動			
第17章 第二次世界大戦と新国際秩序の形成	(4) 第二次世界大戦と諸地域の変容	p.300～322	7
1 世界恐慌とヴェルサイユ体制の破壊			
2 第二次世界大戦			
3 新国際秩序の形成			
第Ⅲ部 まとめ			
第Ⅳ部 地球世界の課題	E 地球世界の課題	p.323	
第18章 冷戦と第三世界の台頭	(1) 国際機構の形成と平和への模索 (2) 経済のグローバル化と格差の是正	p.324～357	4
1 冷戦の展開			
2 第三世界の台頭とキューバ危機			
3 冷戦体制の動揺			
第19章 冷戦の終結と今日の世界			7
1 産業構造の変容			
2 冷戦の終結			
3 今日の世界			
4 現代文明の諸相	(3) 科学技術の高度化と知識基盤社会	p.358～363	
地球世界の課題の探究	(4) 地球世界の課題の探究	p.364	2
		予備	2
		合計	105

常用漢字以外の使用漢字一覧表

錯綜 (表見返し裏)	石斧 (p.4)	飢饉 (p.7)	円錐形 (p.8)	絆 (p.13)	砥石 (p.18)	犁 (p.18)	牽く (p.18)	灌溉 (p.19)	莫大 (p.21)
復讐 (p.22)	隕鉄 (p.22)	対峙 (p.22)	楔形 (p.22)	閏月 (p.23)	獅子 (p.26)	煉瓦 (p.28)	沐浴 (p.28)	祭祀 (p.29)	紡錘 (p.31)
邑 (p.32)	肩胛骨 (p.32)	夷狄 (p.33)	五胡 (p.39)	堅坑 (p.40)	宦官 (p.42)	編纂 (p.46)	口儷 (p.46)	羈縻 (p.48)	琵琶 (p.49)
傭兵 (p.51)	餃子 (p.51)	奢侈品 (p.52)	輪廻 (p.54)	梵 (p.54)	菩薩 (p.56)	衣裳 (p.65)	彩釉陶器 (p.65)	砦 (p.67)	槍 (p.68)
壺絵 (p.68)	僭主 (p.69)	權船 (p.69)	漕ぎ手 (p.70)	狼 (p.75)	挽回 (p.76)	凱旋門 (p.81)	軋轢 (p.88)	伝播 (p.89)	馬蹄 (p.90)
平坦 (p.91)	詩篇集 (p.97)	刺繍 (p.99)	廟 (p.106)	釘 (p.109)	椰子 (p.109)	庇護 (p.111)	読誦 (p.115)	時禱書 (p.118)	姪 (p.124)
一揆 (p.127)	秘蹟 (p.134)	托鉢 (p.134)	尖頭 (p.135)	白蓮教徒 (p.150)	弥勒仏 (p.150)	骨董 (p.154)	楯円 (p.155)	屏風 (p.156)	煽って (p.160)
絨毯 (p.164)	金箔 (p.168)	華僑 (p.173)	辮髪 (p.174)	廢墟 (p.175)	揶揄 (p.178)	猥雑 (p.178)	贅沢 (p.180)	贖宥状 (p.180)	牝牛 (p.180)
終焉 (p.184)	仇敵 (p.198)	啓蒙 (p.198)	演繹 (p.199)	喧嘩 (p.201)	杼 (p.207)	扮装 (p.210)	牢獄 (p.213)	傀儡 (p.215)	甥 (p.225)
欽定 (p.225)	膠着 (p.236)	萌芽 (p.241)	嚙む (p.248)	錫 (p.250)	攘夷 (p.256)	冤罪 (p.262)	棍棒 (p.264)	通牒 (p.279)	塹壕 (p.279)
謳歌 (p.291)	泡沫 (p.302)	邁進 (p.303)	兜 (p.307)	驚愕 (p.308)	標榜 (p.313)	兌換 (p.340)	脆弱 (p.356)	捺染 (p.362)	

\* 地名・人名を含む固有名詞、地図中・資料中の語については、省略しました。

# 出典一覧表

申請図書			出典					備考
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者	発行年次等	
見返し裏	世界の自然	地図						著者作成
見返し裏	世界の気候区分	地図	『理科年表 2019』 「気候系監視資料 2011」		国立天文台編 気象庁	丸善株式会社 財団法人気象業務支援センター	2018 2012	左記出典などを元に著者作成
4	「地球カレンダー」と人類の進化	図						著者作成
5	ラスコーの洞穴絵画	写真						ユニフォトプレス
5	新人(ホモ=サピエンス)の移動と年代	地図						著者作成
6	世界の諸言語の系統分類表	表						著者作成
7	900年～1900年における地球気温の変化	グラフ	Surface Temperature Reconstructions for the Last 2,000 Years		National Academies of Sciences, Engineering, and Medicine	The National Academies Press	2006	左記出典を元に著者作成
8	サトウキビ栽培と砂糖生産の伝播	地図						著者作成
9	マクラーズィーの『エジプト誌』における砂糖生産の記述	史料	『詳説世界史 改訂版』(世B310)	8～9	木村靖二・岸本美緒・小松久男他	山川出版社	2016	
9	砂糖の名前はどこから？	表						著者作成
9	円錐形の土器(ウブルージュ)	写真						佐藤次高提供
9	イスタンブルのコーヒー店に集う人々	写真						ユニフォトプレス
9	イスタンブルのコーヒー店についての記述	史料	『興亡の世界史10 オスマン帝国500年の平和』	262～263	林佳世子		2008	左記出典をもとに作成
10	団体旅行の誕生	写真						ユニフォトプレス
10	8時間労働制のポスター	写真						GettyImages
11	現代の日本における自由時間の過ごし方	グラフ	国民生活に関する世論調査(2019年6月調査)			内閣府	2019	左記出典を元に著者作成
11	災害ボランティアセンター	写真						時事通信社/時事通信フォト
12	アメリカのホームドラマ	写真						ユニフォトプレス
12	戦後日本の家族類型別世帯数の推移	グラフ	人口統計資料集(2020年版)			国立社会保障・人口問題研究所	2020	左記出典を元に著者作成
13	女王一家のクリスマスの団らん	写真						ユニフォトプレス
13	工場で働く女性たち	写真						ユニフォトプレス
14	馬に乗ってボロ競技をする女性(8世紀前半)	写真						ユニフォトプレス
14	アムステルダムのパレード	写真						ユニフォトプレス
15	諸地域の古代文明の展開(前7世紀頃まで)	図						著者作成
16	農作業をおこなう古代エジプトの農民たち(新王国時代の墓の壁画)	写真						ユニフォトプレス
16	シュメール人による農作業の手順(前18世紀～前17世紀)	史料	『世界史史料1』	23	歴史学研究会編	岩波書店	2012	
16	エジプト・中王国時代の「ドゥアケティの教訓」(前19世紀後半)	史料	『世界史史料1』	125	歴史学研究会編	岩波書店	2012	
16	エジプト・中王国時代の書記座像(古王国時代)	写真						ユニフォトプレス
17	古代の西アジア・東地中海地域のおもなできごと	年表						著者作成
17	アッカド王国・ナラム=シンの碑文(前23世紀)	史料	『世界史史料1』	17	歴史学研究会編	岩波書店	2012	
17	アッカド王国・ナラム=シンの戦勝記念碑	写真						ユニフォトプレス
17	アブ=シンバル神殿	写真						ユニフォトプレス
18	彩文土器	写真						ユニフォトプレス
18	磨製石器	写真						ユニフォトプレス
18	農耕をおこなう男女	写真						ユニフォトプレス
19	おもな古代文明とその遺跡	地図						著者作成
19	ユーフラテス川沿岸の灌漑水路を表した粘土板(前17世紀)	写真						ユニフォトプレス
20	バビロニアの地図	写真						ユニフォトプレス
20	古代のオリエント	地図						著者作成
21	ジグurat(聖塔)	写真						ユニフォトプレス
21	ウルのスタンダード	写真						ユニフォトプレス
22	ハンムラビ法典(抜粋)	史料	『古代オリエント資料集成1 ハンムラビ「法典」(第2版)』	9、56～57	中田一郎訳	リオン	2002	
22	スサ(イラン)で発見されたハンムラビ法典碑と楔形文字(碑)	写真						ユニフォトプレス
22	スサ(イラン)で発見されたハンムラビ法典碑と楔形文字(楔形文字)	写真						ユニフォトプレス
22	ヒッタイトの鉄剣	写真						大村次郷提供
23	ヒッタイトの戦車	写真						ユニフォトプレス

申請図書			出典					備考
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者	発行年次等	
見返し裏	世界の自然	地図						著者作成
23	ギザのピラミッド	写真						ユニフォトプレス
24	「死者の書」	写真						ユニフォトプレス
24	ロゼッタ=ストーン	写真						ユニフォトプレス
24	アマルナ美術	写真						ユニフォトプレス
25	文字の継承	図						著者作成
25	ユダ王国の滅亡とバビロン捕囚(『旧約聖書』列王記、25章(前6世紀以降))	史料	『聖書』	609～610	聖書協会共同訳	日本聖書協会	2018	
25	レバノン杉の輸送	写真						ユニフォトプレス
26	ミケーネ城塞の獅子門	写真						ユニフォトプレス
26	クノッソス宮殿の壁画(復元)	写真						ユニフォトプレス
27	アッシェルバニバル王の狩猟	写真						ユニフォトプレス
27	アッシリアと4王国の領域	地図						著者作成
27	リディアの金属貨幣	写真						ユニフォトプレス
28	メロエのピラミッド	写真						ユニフォトプレス
29	モエンジョ=ダーロ	写真						ユニフォトプレス
29	モエンジョ=ダーロ出土の印章	写真						ユニフォトプレス
29	インダス文明とアーリヤ人の進入	地図						著者作成
30	黄土高原	写真						ユニフォトプレス
31	東アジアの地勢とおもな先史文化圏	地図						著者作成
31	彩陶(仰韶文化)	写真						ユニフォトプレス
31	竜形玉器(紅山文化)	写真						ユニフォトプレス
31	黒陶(竜山文化)	写真						ユニフォトプレス
31	青銅仮面(三星堆文化)	写真						ユニフォトプレス
31	彩色紡錘(屈家嶺文化)	写真						ユニフォトプレス
31	琮(良渚文化)	写真						ユニフォトプレス
32	殷・周時代の青銅器	写真						DNP/ 東京国立博物館
32	甲骨文字の刻まれた獣骨	写真						ユニフォトプレス
33	『春秋左氏伝』	史料	『春秋左伝註』	283	[清]洪亮吉(李解民[点校])	中華書局	1987	著者訳
33	戦国の七雄(前4世紀末)	地図						著者作成
34	漢代の文書	写真						CPCphoto
34	代表的な諸子百家	表						著者作成
34	青銅貨幣(布銭)	写真						日本銀行金融研究所貨幣博物館
34	青銅貨幣(円銭)	写真						日本銀行金融研究所貨幣博物館
34	青銅貨幣(刀銭)	写真						日本銀行金融研究所貨幣博物館
35	マヤ文明の神殿	写真						ユニフォトプレス
35	南北アメリカ文明とそのおもな遺跡	地図						著者作成
35	インカの黄金像	写真						ユニフォトプレス
36	マチュ=ピチュ	写真						義井豊提供
36	巨石人頭像	写真						ユニフォトプレス
36	キープ	写真						ユニフォトプレス
37	中央ユーラシアの地勢と遊牧諸勢力の移動	地図						著者作成
38	遊牧民の生活風景	写真						ユニフォトプレス
38	「黄金人間」	写真						ユニフォトプレス
39	漢代の歴史家、司馬遷の描いた匈奴の姿(『史記』匈奴列伝より)	史料	『騎馬民族史 I 正史北狄伝』	45～46	内田吟風・田村実造他訳注	平凡社	1971	
39	スキタイ美術	写真						ユニフォトプレス
40	カナート(カレーズ)の構造図	図						著者作成
40	オアシスの景観	写真						ユニフォトプレス
40	中央アジアを通る「オアシスの道」	地図						著者作成
41	始皇帝陵の兵馬俑	写真						ユニフォトプレス
41	始皇帝陵の兵馬俑(遠景)	写真						ユニフォトプレス

申請図書			出典				備考
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者	発行年次等
見返し裏	世界の自然	地図					著者作成
42	秦・前漢時代のアジア	地図					著者作成
42	『塩鉄論』禁耕	史料	『塩鉄論校注(定本)』上	68	王利器[校注]	中華書局	1992
42	漢の青銅貨幣(五銖銭)	写真					日本銀行金融研究所貨幣博物館
43	牛耕	写真					ユニフォトプレス
43	石経	写真					DNP/ 東京国立博物館
44	「漢委奴国王」金印(印)	写真					DNP/ 福岡市博物館
44	「漢委奴国王」金印(印面)	写真					DNP/ 福岡市博物館
44	三国時代の中国	地図					著者作成
44	5世紀の東アジア	地図					著者作成
45	『顔氏家訓』	史料	『顔氏家訓集解(増補本)』	21	王利器	中華書局	1993
45	魏晋南北朝の諸王朝	図					著者作成
45	北魏初期の祭天遺跡	写真					時事通信社/時事通信フォト
46	雲崗の石窟	写真					ユニフォトプレス
46	敦煌・莫高窟の仏像	写真					ユニフォトプレス
46	「女史箴図」	写真					ユニフォトプレス
47	広開土王碑	写真					田中俊明提供
48	7世紀のアジアと大運河	地図					著者作成
49	均田制に関する文書	写真					龍谷大学図書館
49	唐代の壁画に描かれた外国使節	写真					ユニフォトプレス
49	唐三彩	写真					ユニフォトプレス
49	玄奘	写真					ユニフォトプレス
49	『旧唐書』輿服志	史料	『旧唐書』	1957～58	中華書局標点本	中華書局	1975
50	仏国寺の多宝塔	写真					ユニフォトプレス
50	8世紀後半のアジア	地図					著者作成
50	正倉院の白瑠璃碗とササン朝のカットグラス(白瑠璃碗)	写真					宮内庁正倉院事務所
50	正倉院の白瑠璃碗とササン朝のカットグラス(カットグラス)	写真					平山郁夫シルクロード美術館
51	東アジア諸国の都城	図					著者作成
51	唐代の軽食	写真					ユニフォトプレス
52	顔真卿の書	写真					colbase/東京国立博物館
53	審進をおこなうウイグル人の仏教徒	写真					CPCphoto
53	突厥とソグド人	写真					ユニフォトプレス
54	サーンチーの仏塔	写真					ユニフォトプレス
55	マウリヤ朝の領域	地図					著者作成
55	クシャーナ朝とサータヴァーハナ朝の領域	地図					著者作成
55	アショーカ王石柱頭部のライオン	写真					ユニフォトプレス
55	カニシカ王の像	写真					ユニフォトプレス
56	仏教の伝播	地図					著者作成
56	ガンダーラ仏像	写真					ユニフォトプレス
57	インド洋航海図	地図					著者作成
57	『エリュトラール海案内記』	史料	『エリュトラール海案内記2』	29～30	薜勇造訳注	平凡社	2016
58	踊るシヴァ神	写真					ユニフォトプレス
58	グプタ朝とヴァルダナ朝の領域	地図					著者作成
59	アジャンターの壁画	写真					ユニフォトプレス
59	チャンド=パオリ	写真					ユニフォトプレス
60	銅鼓	写真					ユニフォトプレス
60	オケオ出土のローマの金貨	写真					大村次郷提供
61	7～8世紀頃の東南アジア	地図					著者作成
61	アンコール=ワット	写真					Imagemart
62	バガンの仏教遺跡群	写真					ユニフォトプレス

申請図書			出典				備考	
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者	発行年次等	
見返し裏	世界の自然	地図						著者作成
62	ボロブドゥール	写真						ユニフォトプレス
62	11～12世紀頃の東南アジア	地図						著者作成
63	アケメネス朝の領域	地図						著者作成
64	ペルセポリス「貢納のレリーフ」	写真						ユニフォトプレス
64	クテシフォンの宮殿跡	写真						ユニフォトプレス
65	パルティアとササン朝の領域	地図						著者作成
65	ササン朝と法隆寺の「獅子狩」図案(ササン朝)	写真						ユニフォトプレス
65	ササン朝と法隆寺の「獅子狩」図案(法隆寺)	写真						法隆寺所蔵/東京国立博物館提供
66	ギリシア人の都市国家と勢力範囲	地図						著者作成
67	アテネの市街図(前4世紀)	図						著者作成
68	主人のお供をする奴隷	写真						ユニフォトプレス
68	ギリシアの重装歩兵(図)	図						著者作成
68	ギリシアの重装歩兵(写真)	写真						ユニフォトプレス
69	オストラコン(破片)	写真						ユニフォトプレス
69	オストラコン(円形)	写真						ユニフォトプレス
69	三段櫓船	図	世界の生活史3	47	福井芳男ほか	東京書籍	1984	左記出典を元に著者作成
69	ペルシア戦争	地図						著者作成
70	ペリクレスの演説(前431年)	史料	Thucydides Historiae I	2巻37章1節	Thucydides, H.S. Jones(ed.)	Oxford	1942	著者訳
70	ペリクレス	写真						ユニフォトプレス
70	アテネの民会議場の演壇	写真						著者(橋場弦)提供
71	イッソスの戦い	写真						ユニフォトプレス
72	アレクサンドロスの帝国とヘレニズム時代の3王国	地図						著者作成
72	船に乗ったディオニュソス神	写真						ユニフォトプレス
73	ギリシアの劇場	写真						ユニフォトプレス
73	ギリシア文化一覧表	表						著者作成
74	パルテノン神殿	写真						ユニフォトプレス
74	パルテノン神殿のフリーズ彫刻	写真						ユニフォトプレス
74	ギリシア建築の柱の3様式	図						著者作成
74	「ミロのヴィーナス」	写真						ユニフォトプレス
75	ローマ建国神話の雌狼が刻印された貨幣	写真						ユニフォトプレス
75	フォロ=ロマーノ	写真						WPS(ワールドフォトサービス)
76	ローマによるイタリア半島の統一	地図						著者作成
76	アッピア街道	写真						ユニフォトプレス
76	ローマの重装歩兵	写真						ユニフォトプレス
77	剣闘士	写真						ユニフォトプレス
78	ローマの領土拡大	地図						著者作成
78	アウグストゥス帝の像	写真						ユニフォトプレス
79	神皇アウグストゥス業績録(後14年)	史料	『西洋古代史料集(第2版)』	152～153	古山正人他編訳	東京大学出版会	2002	
80	四帝分治制を記念する彫刻	写真						ユニフォトプレス
80	ローマ帝国の領域とその分割	地図						著者作成
80	コンスタンティヌス帝の像	写真						ユニフォトプレス
81	コンスタンティヌス帝の凱旋門	写真						ユニフォトプレス
81	ローマ時代の水道橋	写真						ユニフォトプレス
81	コロッセウム	写真						ユニフォトプレス
82	ローマ文化一覧表	表						著者作成
82	キケロ	写真						ユニフォトプレス
83	女性の病を癒やすキリスト	写真						ユニフォトプレス
84	カタコンベ(カタコム)	写真						ユニフォトプレス
85	イスラーム政権成立以前の西アジア	地図						著者作成

申請図書			出典				備考	
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者	発行年次等	
見返し裏	世界の自然	地図						著者作成
85	メッカのカーバ聖殿	写真						野町和嘉提供
86	偶像を破壊するムハンマド	写真						WPS(ワールドフォトサービス)
86	イスラーム政権の拡大	地図						著者作成
86	初代正統カリフ、アブー=バクルの選出	史料	『預言者ムハンマド伝3』	592～593	イブン・イスハーク著、イブン・ヒシャーム編註、後藤明他訳	岩波書店	2011	
87	ウマイヤ=モスク	写真						ユニフォトプレス
88	バグダードの円城	図	『マムルーク=異教の世界からきたイスラムの支配者たち』	62	佐藤次高	東京大学出版会	1997	左記出典を元に著者作成
88	サーマッラーのモスク	写真						ユニフォトプレス
88	現代の『コーラン』	写真						佐藤次高提供
89	アラバスク	写真						ユニフォトプレス
90	アズハル=モスク	写真						ユニフォトプレス
90	コルドバのモスク	写真						ユニフォトプレス
90	ファーティマ朝で発行された金貨	写真						ユニフォトプレス
91	ヨーロッパの地勢	地図						著者作成
91	現在のヨーロッパの大森林(ドイツ西南部のシュヴァルトツヴァルト)	写真						ユニフォトプレス
91	ライン川	写真						ユニフォトプレス
92	ゲルマン人とスラヴ人の移動	地図						著者作成
92	ゲルマン人の移動	写真						ユニフォトプレス
93	ソルドゥス金貨(ノミス)	写真						ユニフォトプレス
93	6世紀半ばのビザンツ帝国の領土	地図						著者作成
94	ハギア=ソフィア聖堂とその内部(外観)	写真						ユニフォトプレス
94	ハギア=ソフィア聖堂とその内部(内部)	写真						ユニフォトプレス
94	ユスティニアヌス大帝	写真						ユニフォトプレス
95	クローヴィスの改宗	写真						ユニフォトプレス
95	トゥール=ボワティエ間の戦い	写真						ユニフォトプレス
96	アインハルト『カール大帝伝』(830年代)	史料	『西洋中世史料集』	22～23	ヨーロッパ中世史研究会編	東京大学出版会	2000	
96	カール大帝騎馬像	写真						ユニフォトプレス
97	カール大帝の「西ローマ帝国」	地図						著者作成
97	カロリング朝の写本文化	写真						ユニフォトプレス
97	ヴェルダン条約とメルセン条約によるフランク王国の分裂(ヴェルダン条約)	地図						著者作成
97	ヴェルダン条約とメルセン条約によるフランク王国の分裂(メルセン条約)	地図						著者作成
98	フランク王の系図(カロリング家)	図						著者作成
98	ヴァイキング船	写真						ユニフォトプレス
99	ノルマン人のイングランド征服	写真						ユニフォトプレス
99	9～12世紀のヨーロッパ	地図						著者作成
100	封建社会の模式図	図						著者作成
100	騎士の叙任式	写真						ユニフォトプレス
101	封建的主従関係(『ガルベール=ド=ブリュージュの日記』より)	史料	『西洋中世史料集』	116～117	ヨーロッパ中世史研究会編	東京大学出版会	2000	左記出典を元に著者修正
101	荘園の構造(概念図)	図						著者作成
103	第I部から第II部へ	図						著者作成
104	13世紀における各地の経済ネットワーク	地図	『ヨーロッパ覇権以前=もうひとつの世界システム』(上・下)		ジャネット=L.アブー=エルゴド著、佐藤次高他訳	岩波書店	2001	左記出典を元に著者作成
104	マルコ=ポーロ『世界の記述』にみえるある制度の記録	史料	『世界史史料4』	76	歴史学研究会編	岩波書店	2010	
104	牌子(裏)	写真						京都大学大学院文学研究科東洋史学専修所蔵、京都大学総合博物館寄託
104	牌子(表)	写真						京都大学大学院文学研究科東洋史学専修所蔵、京都大学総合博物館寄託
104	『世界の記述』にみえるある都市の交易の様子	史料	『世界史史料4』	75	歴史学研究会編	岩波書店	2010	

申請図書			出典					備考
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者	発行年次等	
見返し裏	世界の自然	地図						著者作成
105	港市国家バンテンの有力者たち	写真	Southeast Asia in the Age of Commerce 1450-1680 Volume Two:Expansion and Crisis	119	Anthony Reid	Yale University Press	1995	
105	「インド洋における航海の指南書」	史料	『世界史史料2』	298	歴史学研究会編	岩波書店	2009	
105	この航海で用いられたダウ船	写真						ユニフォトプレス
106	サーマーン朝の廟	写真						ユニフォトプレス
106	トルコ人とイスラーム『トルコ語・アラビア語辞典』序文より	史料	Dîvânü lügati' t-türk		Kâşgarli Mahmud	Kültür Bakanlığı Yayınları	1990	著者訳
106	『トルコ語・アラビア語辞典』に画かれた世界地図	写真						ユニフォトプレス
107	トルコ人の西進とトルコ系諸政権の領域	地図						著者作成
107	トルコ系騎馬戦士像	写真						ユニフォトプレス
107	ガズナ朝とゴール朝のインド進出	地図						著者作成
108	クトゥブ=ミナール	写真						ユニフォトプレス
108	ジャンク船	写真						ユニフォトプレス
109	東南アジアへのイスラーム教の伝播	地図						著者作成
109	ダウ船	写真						ユニフォトプレス
110	16世紀までのおもなアフリカの国々	地図						著者作成
110	トンプクトゥのモスク	写真						ユニフォトプレス
110	大ジンバブエ	写真						ユニフォトプレス
111	馬上で訓練するマムルーク騎士	写真						ユニフォトプレス
112	サラーフ=アッディーン(サラディン)	写真						ユニフォトプレス
112	11世紀後半の西アジア・北アフリカ	地図						著者作成
112	イェルサレムの旧市街	写真						ユニフォトプレス
113	モンゴル軍によるバグダード攻略	写真						ユニフォトプレス
113	『集史』に描かれた中国王朝の君主たち	写真						ユニフォトプレス
113	ハーフィズ廟	写真						ユニフォトプレス
114	13世紀後半の北アフリカ・西アジア・南アジア	地図						著者作成
115	マクラーズィー『年代記』にみる14世紀のカイロ	史料	『中世イスラム国家とアラブ社会—イクター制の研究』	386~387	佐藤次高	山川出版社	1986	
115	カイロの町並み	写真						ユニフォトプレス
115	神秘主義(スーフィズム)	写真						公益財団法人東洋文庫
116	ムスリム商人の交易とイブン=バットゥータの行程	地図						著者作成
116	アルハンブラ宮殿(獅子の中庭)	写真						ユニフォトプレス
116	アルハンブラ宮殿(外観)	写真						ユニフォトプレス
117	カトリックの階層制組織	図						著者作成
118	カノッサの屈辱	写真						ユニフォトプレス
118	インノケンティウス3世	写真						ユニフォトプレス
118	中世の農耕	写真						ユニフォトプレス
119	十字軍と西ヨーロッパ勢力の拡大(11~13世紀)	地図						著者作成
119	サラーフ=アッディーンの軍に攻撃されるイェルサレム	写真						ユニフォトプレス
120	中世都市・交通路と二大商業圏	地図						著者作成
120	香辛料(コショウ)	写真						ユニフォトプレス
120	香辛料(クローヴ)	写真						ユニフォトプレス
120	香辛料(ナツメグ)	写真						ユニフォトプレス
120	香辛料(シナモン)	写真						ユニフォトプレス
120	中世の店先	写真						ユニフォトプレス
121	ヴェネツィア	写真						ユニフォトプレス
121	リュウベックのホルステン門	写真						ユニフォトプレス
122	ギルドの親方と弟子	写真						ユニフォトプレス
123	聖母子像を描いたイコン	写真						ユニフォトプレス
123	サン=ヴィターレ聖堂	写真						ユニフォトプレス
124	10世紀末頃の東ヨーロッパ	地図						著者作成

申請図書			出典					備考
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者	発行年次等	
見返し裏	世界の自然	地図						著者作成
125	クラクフのヴァヴェル城	写真						Shutterstock
125	聖ワシーリー聖堂	写真						ユニフォトプレス
125	14世紀半ば～15世紀の東ヨーロッパ	地図						著者作成
126	黒死病の流行	写真						ユニフォトプレス
126	ワット=タイラーの乱	写真						ユニフォトプレス
127	異端審問	写真						ユニフォトプレス
128	フス戦争と戦術	写真						ユニフォトプレス
129	大憲章(マグナ=カルタ)	史料	『新訳世界史史料・名言集』	60	江上波夫監修	山川出版社	1975	
129	大憲章(マグナ=カルタ)	写真						ユニフォトプレス
129	アルビジョワ派の追放	写真						ユニフォトプレス
130	クレシーの戦い	写真						ユニフォトプレス
130	百年戦争当時の英仏関係	地図						著者作成
130	ジャンヌ=ダルク	写真						ユニフォトプレス
131	百年戦争とバラ戦争に関する系図	図						著者作成
131	イベリア半島の国土回復運動	地図						著者作成
131	スペイン女王イサベル・国王フェルナンドと娘のフアナ	写真						ユニフォトプレス
132	プラハの町並みとカレル橋	写真						ユニフォトプレス
132	15世紀末のドイツ・スイス・イタリア・北欧	地図						著者作成
133	「金印勅書」、ローマ王の選挙について	史料						千葉敏之抄訳
133	「金印勅書」の印章	写真						ユニフォトプレス
134	開墾する修道士	写真						ユニフォトプレス
134	中世文化一覧表	表						著者作成
135	中世の大学の講義風景	写真						ユニフォトプレス
136	シュパイアー大聖堂	写真						ユニフォトプレス
136	ロマネスク様式の彫刻	写真						ユニフォトプレス
136	ランス大聖堂	写真						ユニフォトプレス
136	シャルトル大聖堂のステンドグラス	写真						ユニフォトプレス
137	応県木塔(仏宮寺釈迦塔)	写真						ユニフォトプレス
137	11世紀後半の東アジア	地図						著者作成
138	高麗青磁	写真						ユニフォトプレス
138	「源氏物語絵巻」(絵)	写真						DNP/ 徳川美術館所蔵
138	「源氏物語絵巻」(詞書)	写真						DNP/ 徳川美術館所蔵
138	ハノイの文廟(孔子廟)	写真						ユニフォトプレス
139	12世紀頃のアジア	地図						著者作成
139	王安石の新法	表						著者作成
140	宋代の都市の繁栄	写真						ユニフォトプレス
140	莊綽『鷄肋編』	史料	四庫全書本					著者訳
141	宋の白磁	写真						大阪市立東洋陶磁美術館
142	院体画	写真						ユニフォトプレス
142	文人画	写真						ユニフォトプレス
142	金代の上絵付	写真						DNP/ 静嘉堂文庫美術館
143	牌子(通行証)(西夏文字)	写真						ユニフォトプレス
143	牌子(通行証)(女真文字)	写真	愛新覚羅烏拉熙春女真契丹学研究	裏表紙	愛新覚羅烏拉熙春	松香堂書店	2009	
143	牌子(通行証)(契丹文字)	写真						京都大学大学院文学研究科東洋史学専修所蔵、京都大学総合博物館寄託
143	牌子(通行証)(漢字)	写真						京都大学大学院文学研究科東洋史学専修所蔵、京都大学総合博物館寄託
143	牌子(通行証)(漢字)	写真						ユニフォトプレス
143	牌子(通行証)(アラビア文字、パクパ文字、ウイグル文字)	写真						ユニフォトプレス

申請図書			出典					備考
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者	発行年次等	
見返し裏	世界の自然	地図						著者作成
143	高麗版大藏經	写真						CPCphoto
144	イル=ハン国時代に描かれたモンゴル騎士	写真						ユニフォトプレス
144	モンゴル帝室の系図	図						著者作成
145	モンゴル帝国の最大領域	地図						著者作成
146	新安沈船	写真						韓国国立海洋文化財研究所
146	観星台(元代の天文台)	写真						CPCphoto
146	銀錠	写真						大日本印章株式会社
146	交鈔	写真						日本銀行金融研究所貨幣博物館
147	「混一疆理歴代国都之図」	写真						本光寺(常盤歴史資料館)
147	『世界の記述』(『東方見聞録』)	史料	『マルコ・ポーロ/ルスティケッロ・ダ・ビーサ 世界の記』	405～406	高田英樹訳	名古屋大学出版会	2013	
148	元の染付	写真						ユニフォトプレス
149	ティムール廟とそのドーム(廟)	写真						ユニフォトプレス
149	ティムール廟とそのドーム(ドーム)	写真						ユニフォトプレス
149	ティムールの遠征とティムール朝の勢力範囲	地図						著者作成
149	サマルカンドの繁栄—クラヴィホの旅行記から	史料	『チムール帝国紀行』	254～255	クラヴィホ著、山田信夫訳	桃源社	1979	
151	明代のアジア(15世紀頃)	地図						著者作成
151	洪武帝	写真						ユニフォトプレス
151	洪武帝(異形)	写真						ユニフォトプレス
152	万里の長城	写真						ユニフォトプレス
152	訓民正音(ハングル)	写真						ユニフォトプレス
153	鄭暁『今言』(1566年)	史料	『今言』	136～137	鄭暁	中華書局	1984	著者訳
153	『倭寇図巻』	写真						東京大学史料編纂所
154	糸くり	写真						公益財団法人東洋文庫
155	「坤輿万国全図」	写真						宮城県図書館
155	『西遊記』の挿絵	写真						国立公文書館
155	マテオ=リッチと徐光啓	写真						公益財団法人東洋文庫
156	「南蛮屏風」	写真						神戸市立博物館
156	朝鮮の亀船(亀甲船)	写真						CPCphoto
157	朱印船貿易(「茶屋船交趾渡航貿易絵巻」部分)	写真						情妙寺
158	リスボン港の風景(1562年)	写真						ユニフォトプレス
158	ゴアの大聖堂	写真						ユニフォトプレス
159	ヨーロッパ人による航海と探検	地図						著者作成
159	16世紀初めにヨーロッパでつくられた世界地図	写真						ユニフォトプレス
160	アステカ王国の滅亡	写真						ユニフォトプレス
160	ラス=カサス『インディアスの破壊についての簡潔な報告』(1552年)	史料	『インディアスの破壊についての簡潔な報告』(改版)	67、86	ラス=カサス著、染田秀藤訳	岩波書店	2013	
161	マニラとメキシコのアカプルコを結ぶガレオン船が描かれた地図(1589年)	写真						ユニフォトプレス
162	イエニチェリ	写真						ユニフォトプレス
163	オスマン帝国とサファヴィー朝の最大領域	地図						著者作成
163	ウィーン包囲戦	写真						ユニフォトプレス
163	スレイマン=モスク	写真						ユニフォトプレス
164	オスマン帝国の軍楽隊	写真						ユニフォトプレス
164	『良書』にみるオスマン帝国の「乱れ」	史料	Osmanlı devlet teşkilâtına dair kaynaklar : Kitâb-i müstetâb, Kitabu mesâ lihi'l Müslimîn ve menâf'i'l-mü'minîn, Hırzû'l-mülûk	29、50	Yaşar Yücel	Türk tarih kurumu basimevi	1988	
165	イスファハーンの「王の広場」	写真						ユニフォトプレス
165	「イマームのモスク」(正面入り口)	写真						ユニフォトプレス
165	アッバース1世	写真						ユニフォトプレス
166	パーニーパットの戦い	写真						ユニフォトプレス
167	ムガル帝国の領域	地図						著者作成
167	象に乗ってガンジス川を渡るアクバル	写真						ユニフォトプレス

申請図書			出典					備考
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者	発行年次等	
見返し裏	世界の自然	地図						著者作成
167	ムガル帝国時代の細密画	写真						ユニフォトプレス
168	タージ=マハル	写真						ユニフォトプレス
168	シク教の黄金寺院	写真						ユニフォトプレス
169	康熙帝	写真						ユニフォトプレス
169	ブーヴェ『康熙帝伝』(1697年)	史料	『康熙帝伝』	4～5、7～8、 18～19	後藤末雄訳、矢沢利彦校注	平凡社	1970	
170	紫禁城の太和殿	写真						ユニフォトプレス
170	獵場での暴れ馬乗り(カステイリオーネら作「木蘭図」)	写真						ユニフォトプレス
170	ラサのポタラ宮殿	写真						ユニフォトプレス
171	清代のアジア(18世紀後半)	地図						著者作成
171	清朝中期につくられた辞書『五体清文鑑』	図						ユニフォトプレス
172	「琉球貿易図屏風」	写真						滋賀大学経済学部附属史料館所
172	日本(江戸時代)の対外関係	図						著者作成
172	朝鮮通信使行列絵巻	写真						長崎県対馬歴史研究センター
173	17世紀のバタヴィア	写真						ユニフォトプレス
174	辮髪	写真	『清俗紀聞』					国立公文書館
174	八旗兵	写真						CPCphoto
174	広州の外国商館	写真						ユニフォトプレス
175	円明園	写真						ユニフォトプレス
175	カステイリオーネが描いた乾隆帝	写真						ユニフォトプレス
175	シノワズリ	写真						ユニフォトプレス
176	ルネサンス時代のイタリア	地図						著者作成
176	レオナルド=ダ=ヴィンチ	写真						ユニフォトプレス
177	「アテネの学堂」	写真						ユニフォトプレス
177	コペルニクスの天球図	写真						ユニフォトプレス
177	「解剖手稿」	写真						ユニフォトプレス
178	エラスムス	写真						ユニフォトプレス
178	活版印刷所	写真						ユニフォトプレス
179	「農民の踊り」	写真						ユニフォトプレス
179	「最後の晩餐」	写真						ユニフォトプレス
179	「ダヴィデ像」	写真						ユニフォトプレス
179	「ヴィーナスの誕生」	写真						ユニフォトプレス
179	ルネサンス期の文芸と美術	表						著者作成
180	サン=ピエトロ大聖堂	写真						ユニフォトプレス
180	贖宥状の販売	写真						ユニフォトプレス
180	ルター	写真						ユニフォトプレス
181	ルターの「九十五カ条の論題」(1517年)	史料	『ルター著作選集』	10、13、21	ルーテル学院大学/日本ルーテル神学校	教文館	2005	左記出典を参考に著者訳
	ルターの『キリスト者の自由』(1520年)	史料	『宗教改革著作集3 ルターとその周辺 I』	10～12		教文館	1983	左記出典を参考に著者訳
181	プロテスタントとカトリックの分布(16世紀半ば)	地図						著者作成
182	ヘンリ8世	写真						ユニフォトプレス
183	トリエント公会議	写真						ユニフォトプレス
183	バロック様式(ルーベンス「聖フランシスコ=ザビエルの奇蹟」)	写真						ユニフォトプレス
183	ザビエル	写真						神戸市立博物館
184	カール5世	写真						ユニフォトプレス
184	16世紀半ばのヨーロッパ	地図						著者作成
185	ハプスブルク家の系図	図						著者作成
186	レバントの海戦	写真						ユニフォトプレス
186	エリザベス1世	写真						ユニフォトプレス

申請図書			出典					備考
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者	発行年次等	
見返し裏	世界の自然	地図						著者作成
187	サンバルテルミの虐殺	写真						ユニフォトプレス
188	三十年戦争	写真						ユニフォトプレス
188	17世紀半ばのヨーロッパ(ウェストファリア条約後)	地図						著者作成
189	オランダ東インド会社の皿	写真						神戸市立博物館
189	「アムステルダム織物業者組合の幹部たち」	写真						ユニフォトプレス
190	17世紀半ばのヨーロッパ諸国の植民地	地図						著者作成
191	イギリス議会の様子(18世紀)	写真						ユニフォトプレス
192	権利の章典(抜粋)	史料	『詳説世界史 改訂版』(世B310)	8～9	木村靖二・岸本美緒・小松久男他	山川出版社	2016	
192	ルイ14世	写真						ユニフォトプレス
193	ヴェルサイユ宮殿「鏡の間」	写真						ユニフォトプレス
193	ヴェルサイユ宮殿	写真						ユニフォトプレス
194	スペイン継承戦争前後のスペイン王とフランス王との関係	図						著者作成
194	大西洋における三角貿易	地図						著者作成
195	ポーランド分割	写真						ユニフォトプレス
196	ロシアの領土拡大	地図						著者作成
196	ひげを切られるロシア貴族	写真						ユニフォトプレス
197	18世紀半ばのヨーロッパ	地図						著者作成
197	マリア=テレジアとその家族	写真						ユニフォトプレス
198	サンスーシ宮殿	写真						Shutterstock
198	サンスーシ宮殿の内部装飾	写真						ユニフォトプレス
199	ニュートン式反射望遠鏡(レプリカ)	写真						ユニフォトプレス
199	フックが発明した顕微鏡	写真						ユニフォトプレス
200	17～18世紀の自然科学と哲学・社会科学	表						著者作成
201	18世紀フランスのサロン	写真						ユニフォトプレス
201	18世紀初めのロンドンのコーヒーハウス	写真						ユニフォトプレス
203	1854年のペリーの横浜上陸を描いた石版画	写真						横浜開港資料館
203	「サンラザール駅」(モネ作、1877年)	写真						アフロ
203	「世界一周旅行」(エミール=ジェイコブ=シンドラー作、1891年)	写真						ユニフォトプレス
204	『コモン=センス』(1776年、米)	写真						ユニフォトプレス
204	「過去」と題された民衆版画(18世紀、仏)	写真						ユニフォトプレス
204	ピラに群がる人々を描いた風刺画(1848年、奥)	写真						ユニフォトプレス
204	新聞掲載の公開状「私は弾劾する」(1898年、仏)	写真						ユニフォトプレス
204	雑誌『新民叢報』(1902年創刊)	写真						ユニフォトプレス
204	世界を一周する電信網(20世紀初め)	写真						ユニフォトプレス
204	ピュリッツァーの新聞評	史料	『現代メディア史』	83	佐藤卓己	岩波書店	1998	
204	ピュリッツァー	写真						ユニフォトプレス
205	プロパガンダ=ポスター(第一次世界大戦期、英)	写真						ユニフォトプレス
205	新聞報道(太平洋戦争期、日)	写真						朝日新聞社
205	映画館(1920年代、米)	写真						ユニフォトプレス
205	商品広告ポスター(1923年、米)	写真						ユニフォトプレス
205	ラジオ放送に関する論評	史料	「ラジオ文明の原理」(『改造』1925年7月)	30、42～43	室伏高信	改造社	1925	
206	異国の産品	写真						ユニフォトプレス
207	産業革命時代のイギリス	地図						著者作成
207	1840年の紡績工場	写真						ユニフォトプレス
207	綿工業・交通手段におけるおもな技術革新	表						著者作成
208	イギリス主要都市の人口	表	世界歴史大系『イギリス史3』	31	村岡健次他編	山川出版社	1991	左記出典をもとに著者作成
210	植民地時代の北アメリカ東部(1750年頃)	地図						著者作成
210	ボストン茶会事件	写真						ユニフォトプレス
211	アメリカ独立宣言(抜粋)	史料	『新訳世界史史料・名言集』	100	江上波夫監修	山川出版社	1975	

申請図書			出典				備考	
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者	発行年次等	
見返し裏	世界の自然	地図						著者作成
211	アメリカ独立宣言の起草	写真						ユニフォトプレス
211	ワシントン	写真						ユニフォトプレス
212	「旧体制」の風刺画	写真						ユニフォトプレス
212	革命旗をもつサンキュロット	写真						ユニフォトプレス
212	バステューユ牢獄への攻撃	写真						ユニフォトプレス
213	人権宣言(抜粋)	史料	『新訳世界史史料・名言集』	103	江上波夫監修	山川出版社	1975	
214	ヴァレンヌ逃亡事件	写真						ユニフォトプレス
214	フランス革命前半の有力な政治派閥とおもな政治家	表						著者作成
214	ルイ16世の処刑	写真						ユニフォトプレス
215	「ナポレオンの戴冠式」	写真						ユニフォトプレス
216	「1808年5月3日」	写真						ユニフォトプレス
216	大陸封鎖令	写真						ユニフォトプレス
216	ワーテルローの戦い	写真						ユニフォトプレス
217	ナポレオン全盛時代のヨーロッパ(1810～12年)	地図						著者作成
217	ナポレオン関連年表	表						著者作成
218	環大西洋革命	地図						著者作成
219	トゥサン＝ルヴェルチュール	写真						ユニフォトプレス
219	ボリバル	写真						ユニフォトプレス
219	ラテンアメリカ諸国の独立	地図						著者作成
220	ウィーン会議	写真						ユニフォトプレス
221	ウィーン会議後のヨーロッパ(1815年)	地図						著者作成
222	「民衆を導く自由の女神」	写真						ユニフォトプレス
224	マルクス	写真						ユニフォトプレス
224	トクヴィルによる1848年1月の議会演説(抜粋)	史料	『フランス二月革命の日々トクヴィル回想録』	31～32	アレクシス・ド・トクヴィル著、喜安朗訳	岩波書店	1988	
225	フランクフルト国民議会	写真						ユニフォトプレス
225	ナポレオン3世	写真						ユニフォトプレス
226	クリミア戦争	写真						ユニフォトプレス
226	農奴解放	写真						ユニフォトプレス
227	19世紀ヨーロッパにおける鉄道網の発展	地図						著者作成
227	19世紀ヨーロッパにおける鉄道距離の推移	表	Historischer Bild-Atlas: Daten & Fakten der Weltgeschichte		Pierre Vidal-Naquet, Jacques Bertin	Orbis-Verlag	1991	左記出典をもとに著者作成
227	第1回万国博覧会(ロンドン)	写真						ユニフォトプレス
228	ヴィクトリア女王	写真						WPS(ワールドフォトサービス)
229	「血の週間」	写真						ユニフォトプレス
229	ガリバルディ	写真						ユニフォトプレス
230	イタリアとドイツの統一	地図						著者作成
231	クルップの巨砲	写真						ユニフォトプレス
231	ドイツ帝国の成立	写真						ユニフォトプレス
232	ベルリン会議後のバルカン半島	地図						著者作成
233	第1回国際オリンピック大会(1896年)	写真						ユニフォトプレス
234	アメリカ合衆国の領土拡張	地図						著者作成
235	追われる先住民	写真						ユニフォトプレス
236	ゲティスバーグで演説するリンカン	写真						ユニフォトプレス
236	南北戦争	写真						ユニフォトプレス
237	大陸横断鉄道の開通	写真						ユニフォトプレス
239	19世紀の代表的芸術家・作家	表						著者作成
239	ロマン主義(カスパー＝フリードリヒ「月をながめる2人の男」)	写真						ユニフォトプレス
239	写実主義(クールベ「石割り」)	写真						ユニフォトプレス
239	印象派(ルノワール「ブランコ」)	写真						ユニフォトプレス
240	「尊敬すべきオランウータン」と題されたダーウィンの戯画	写真						ユニフォトプレス

申請図書			出典					備考
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者	発行年次等	
見返し裏	世界の自然	地図						著者作成
240	19世紀～20世紀初めの自然科学・技術・探検	表						著者作成
241	コッホ	写真						ユニフォトプレス
241	パリの下水道	写真						ユニフォトプレス
242	19世紀の西アジアとバルカン半島	地図						著者作成
243	ムハンマド=アリーによるマムルークの掃	写真						ユニフォトプレス
244	ミドハト=パシヤ	写真						ユニフォトプレス
244	ヒジャーズ鉄道	写真						ユニフォトプレス
245	オスマン帝国憲法(抜粋)	史料	『トルコにおける議会制の展開—オスマン帝国からトルコ共和国へ』	4～6	粕谷元編	東洋文庫	2007	
246	イギリス東インド会社本社	写真						ユニフォトプレス
247	インドとイギリスの綿織物の輸出	グラフ	『インド史』	214	山本達郎編	山川出版社	1960	左記出典を元に著者作成
247	18世紀～19世紀前半の有力なインド勢力	地図						著者作成
247	植民地インドの領域(18世紀後半～19世紀末)	地図						著者作成
248	名目だけの存在となったムガル皇帝	写真						ユニフォトプレス
248	インド大反乱	写真						ユニフォトプレス
249	強制栽培制度下のジャワの農村	写真						ユニフォトプレス
250	東南アジアの植民地化	地図						著者作成
250	ゴムのプランテーション	写真						ユニフォトプレス
251	チュラロンコン	写真						ユニフォトプレス
252	三角貿易	図	British Parliamentary Papers, 1859(38 Sess. 2)XXIII. Returns relating to the trade of India and China, from 1814 to 1858.				1859	左記出典を元に著者作成
252	マカートニーの1794年1月の日記	史料	『中国訪問使節日記』	220～221	マカートニー著、坂野正高訳注	平凡社	1975	
253	アヘン戦争におけるイギリス軍艦(汽船)と清朝軍艦(帆船)の海戦	写真						ユニフォトプレス
254	ロシアの東方進出	地図						著者作成
254	清朝側が描いた太平天国との戦闘	写真						ユニフォトプレス
255	19世紀半ばの東アジア	地図						著者作成
255	南京の武器製造工場とその実態	写真						ユニフォトプレス
257	上州(現在の群馬県)の富岡製糸場と製糸業	写真						市立岡谷蚕糸博物館蔵
258	ヨーロッパからアメリカ合衆国への移民(1870～1900年)	写真						ユニフォトプレス
258	ヨーロッパからアメリカ合衆国への移民(1870～1900年)	グラフ	『アメリカ合衆国史2 フロンティアと摩天楼』	73	野村達朗	講談社	1989	左記出典を元に著者作成
259	列強の海外植民地領有面積の比較(1914年)	図	『帝国主義論』	105	レーニン著、副島種典訳	大月書店	1972	左記出典を元に著者作成
259	キプリング「白人の責務」(1899年)	史料	McClure's Magazine vol. xii. No.4(february, 1899)				1899	著者訳
259	「白人の責務」の風刺画	写真						ユニフォトプレス
260	エッフェル塔	写真						ユニフォトプレス
260	1900年のパリ万国博覧会電気館	写真						ユニフォトプレス
261	スエズ運河	写真						ユニフォトプレス
262	ドレフュス事件	写真						ユニフォトプレス
263	血の日曜日事件	写真						ユニフォトプレス
264	19世紀末～20世紀初めのカリブ海地域	地図						著者作成
264	「棍棒外交」	写真						ユニフォトプレス
265	アフリカ縦断政策をとなえるローズを描いた当時の風刺画	写真						ユニフォトプレス
265	アフリカにおける列強の植民地(20世紀初め)	地図						著者作成
266	19世紀末以後のアジア・アフリカにおける植民地化に対する抵抗運動	地図						著者作成
266	アドワの戦い	写真						ユニフォトプレス
267	太平洋における列強の勢力圏(20世紀初め)	地図						著者作成
267	ハワイ最後の女王リリウオカラニ(在位1891～93)	写真						ユニフォトプレス
268	チリにおける硝石の船積みの様子	写真						アフロ
269	メキシコ革命	写真						ユニフォトプレス
269	第一次世界大戦前の同盟・協商関係	図						著者作成

申請図書			出典					備考
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者	発行年次等	
見返し裏	世界の自然	地図						著者作成
270	東アジアにおける列強の進出	地図						著者作成
271	梁啓超「中国積弱の根源について」(『清議報』1901年4～7月掲載)	史料	『新編 原典中国近代思想史2—万国公法の時代』	250～252	村田雄二郎責任編集	岩波書店	2010	
271	義和団	写真						パブリックドメイン
272	韓国の義兵闘争	写真						ユニフォトプレス
273	孫文と日本の友人たち	写真						ユニフォトプレス
275	インド国民会議創立大会	写真						ユニフォトプレス
275	ティラク	写真						ユニフォトプレス
276	カルティニ	写真						ユニフォトプレス
276	ホセ=リサル	写真						ユニフォトプレス
276	ファン=ボイ=チャウ	写真						ユニフォトプレス
277	アフガニー	写真						ユニフォトプレス
277	ウラービー	写真						ユニフォトプレス
278	第2次バルカン戦争終結後のバルカン諸国	地図						著者作成
279	第一次世界大戦中のヨーロッパ	地図						著者作成
279	「ヨーロッパの火薬庫」	写真						ユニフォトプレス
279	聖壕戦	写真						ユニフォトプレス
280	新兵器の戦車と飛行機(戦車)	写真						ユニフォトプレス
280	新兵器の戦車と飛行機(飛行機)	写真						ユニフォトプレス
280	潜水艦	写真						ユニフォトプレス
281	前線のインド兵を激励するロイド=ジョージ英首相	写真						ユニフォトプレス
281	軍需工場で働く女性	写真						ユニフォトプレス
281	ドイツ革命	写真						ユニフォトプレス
282	演説するレーニン	写真						ユニフォトプレス
283	対ソ干渉戦争(シベリア出兵)	写真						ユニフォトプレス
283	「平和に関する布告」(1917年11月)	史料	『世界史史料10』	53～54	歴史学研究会編	岩波書店	2006	
284	パリ講和会議	写真						ユニフォトプレス
284	ウィルソンの「十四カ条」(概要)	史料						著者作成
285	第一次世界大戦後のヨーロッパ	地図						著者作成
286	国際連盟の組織	図						著者作成
287	ドイツの通貨インフレ	写真						ユニフォトプレス
287	ドーズ案成立後の資本の国際的循環	図						著者作成
288	不戦条約	写真						ユニフォトプレス
289	「ローマ進軍」時のファシスト党の指導者たち	写真						ユニフォトプレス
290	五カ年計画のポスター	写真						ユニフォトプレス
290	コルホーズ	写真						ユニフォトプレス
290	スターリン	写真						ユニフォトプレス
291	フォードの工場とフォードT型車(工場)	写真						ユニフォトプレス
291	フォードの工場とフォードT型車(車)	写真						ユニフォトプレス
291	商品広告	写真						ユニフォトプレス
292	魯迅	写真						ユニフォトプレス
292	第一次世界大戦前後の日本と中国の貿易	図	日本:『日本経済統計総観』、中国:China's Foreign Trade Statistics 1864-1949		朝日新聞社編、Hsiao Liang-lin	朝日新聞社、Harvard University Asia Center	1930、1974	左記出典をもとに筆者作成
293	胡適「文学革命についての書簡」(1916年10月)	史料	『新編 原典中国近代思想史4—世界大戦と国民形成』	105	坂元ひろ子責任編集	岩波書店	2010	
293	三・一独立運動	写真						ユニフォトプレス
294	五・四運動	写真						ユニフォトプレス
295	1920～30年代の中国	地図						著者作成
296	憲政改革調査委員会へのデモ	写真						ユニフォトプレス
296	「塩の行進」	写真						ユニフォトプレス
296	スカルノ	写真						ユニフォトプレス

申請図書			出典					備考
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者	発行年次等	
見返し裏	世界の自然	地図						著者作成
297	ホー=チ=ミン	写真						ユニフォトプレス
297	オスマン帝国の分割	地図						著者作成
298	ムスタファ=ケマル	写真						ユニフォトプレス
298	第一次世界大戦後の西アジア	地図						著者作成
299	フセイン・マクマホン協定(1915年)	史料	『世界史史料10』	38	歴史学研究会編	岩波書店	2006	
299	バルフォア宣言(1917年)	史料	『世界史史料10』	24	歴史学研究会編	岩波書店	2006	
300	株価暴落で混乱するウォール街(1929年10月)	写真						ユニフォトプレス
301	フランクリン=ローズヴェルト	写真						GettyImages
301	世界恐慌中の各国工業生産指数の推移	グラフ	『近現代日本経済史要覧 補訂版』	114	三和良一・原朗編	東京大学出版会	2010	左記出典を元に著者作成
302	ナチ党の国会議席数と得票率の推移	グラフ	『世界史リブレット49 ナチズムの時代』	21	山本秀行	山川出版社	1998	左記出典を元に著者作成
303	ナチ党の全国党大会	写真						ユニフォトプレス
304	満洲国のポスター	写真						南部町祐生出合いの館
304	満洲国の成立	写真						ユニフォトプレス
305	蒋介石「盧溝橋事件に関する廬山談話」(1937年7月17日)	史料	『近代中国研究案内』	200	小島晋治・並木頼寿編	岩波書店	1993	
305	日中戦争の拡大	地図						著者作成
306	ヒトラーとムッソリーニ	写真						ユニフォトプレス
307	「ゲルニカ」	写真						ユニフォトプレス
307	スペイン人民戦線のポスター	写真						ユニフォトプレス
308	ナチス=ドイツの領土拡大	地図						著者作成
309	第二次世界大戦(ヨーロッパ戦線)	地図						著者作成
310	ワルシャワの居住区(ゲット)から強制収容所に送られるユダヤ人(1943年)	写真						ユニフォトプレス
310	パールハーバー(真珠湾)攻撃	写真						ユニフォトプレス
311	太平洋戦争	地図						著者作成
311	「バターン死の行進」	写真						ユニフォトプレス
312	大西洋憲章(1941年、抜粋)	史料	『世界史史料10』	352~353	歴史学研究会編	岩波書店	2006	
312	ヤルタ会談	写真						ユニフォトプレス
313	広島市の爆心地付近	写真						広島平和記念資料館提供/米軍撮影
314	サンフランシスコ会議	写真						ユニフォトプレス
314	国際連合の組織	図						著者作成
315	ニュルンベルク国際軍事法廷	写真						ユニフォトプレス
315	ドイツとベルリンの分割	地図						著者作成
316	「鉄のカーテン」演説をおこなうチャーチル	写真						ユニフォトプレス
317	ベルリン封鎖	写真						ユニフォトプレス
318	中華人民政治協商会議共同綱領(1949年9月)	史料	『世界史史料11』	17	歴史学研究会編	岩波書店	2012	
318	中華人民共和国の成立を宣言する毛沢東	写真						ユニフォトプレス
318	朝鮮戦争	地図						著者作成
319	サンフランシスコ平和条約への調印	写真						ユニフォトプレス
320	第二次世界大戦後の東アジア・東南アジア・南アジア(1950年頃)	地図						著者作成
321	第二次世界大戦後の西アジア	地図						著者作成
321	第1次中東戦争	地図						著者作成
323	経済格差の是正を訴える「反ウォール街デモ」(アメリカ合衆国、2011年)	写真						アフロ
323	気候変動への対策を訴える国際ストライキ(スコットランド、2019年)	写真						GettyImages
323	核兵器禁止条約の発効を記念して、広島市の原爆ドーム前でおこなわれたイベント(2021年)	写真						朝日新聞社
324	冷戦の時代に結ばれた世界の諸同盟とおもな紛争地点	地図						著者作成
325	ビキニ環礁での水爆実験(1954年)	写真						ユニフォトプレス
326	先進国の平均経済成長率	表	『世界の歴史29』	58	猪木武徳	中央公論新社	1999	左記出典を元に著者作成
326	アルジェリアで演説するド=ゴール(1958年)	写真						GettyImages
327	ソ連共産党第20回大会で演説するフルシチョフ	写真						ユニフォトプレス

申請図書			出典				備考	
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者	発行年次等	
見返し裏	世界の自然	地図						著者作成
327	スターリン批判(1956年)	史料	«О культе личности и его последствиях»: Доклад Первого секретаря ЦК КПСС тов. Хрущева Н. С. XX съезду КПСС 25 февраля 1956 г. // Известия ЦК КПСС, 1989, № 3.	128, 130~131	Х р у щ ё в, Н. С.	ЦК КПСС	1989	著者訳
328	「ベルリンの壁」の建設	写真						ユニフォトプレス
329	ナセルとフルシチョフ	写真						ユニフォトプレス
329	独立を宣言するエンクルマ	写真						ユニフォトプレス
330	アフリカ諸国の独立	地図						著者作成
330	南アフリカのアパルトヘイト政策	写真						ユニフォトプレス
331	キューバ革命	写真						ユニフォトプレス
331	カストロによる第2次ハバナ宣言(1962年)	史料	『世界史史料11』	146~147	歴史学研究会編	岩波書店	2012	
332	キューバ危機	写真						ユニフォトプレス
333	ベトナム戦争	写真						ユニフォトプレス
333	「安全への逃避」	写真						GettyImages
333	ベトナム戦争	地図						著者作成
334	リトルロック高校事件	写真						GettyImages
334	公民権運動を指導するキング	写真						ユニフォトプレス
334	アメリカ合衆国や日本でのベトナム反戦運動(アメリカ)	写真						GettyImages
334	アメリカ合衆国や日本でのベトナム反戦運動(日本)	写真						毎日新聞社
335	チェコスロヴァキア共産党行動綱領(1968年)	史料	『世界史史料11』	233	歴史学研究会編	岩波書店	2012	
335	ソ連の軍事介入に抗議するプラハ市民	写真						ユニフォトプレス
335	西ドイツの「東方外交」	写真						ユニフォトプレス
336	紅衛兵の集会	写真						CPCphoto
337	中国を訪問するニクソン	写真						ユニフォトプレス
338	アジアの開発独裁体制	地図						著者作成
338	マハティール	写真						時事通信社/時事通信フォト
338	朴正熙	写真						ユニフォトプレス
338	マルコス	写真						ユニフォトプレス
338	スハルト	写真						ユニフォトプレス
338	リー=クアンユー	写真						時事通信フォト
338	アジェンデ	写真						ユニフォトプレス
339	酸性雨の影響でとけた石像(1908年)	写真						時事通信社/時事通信フォト
339	酸性雨の影響でとけた石像(1969年)	写真						時事通信社/時事通信フォト
339	公害	写真						パブリックドメイン
340	原油価格の推移	グラフ	BP Statistical Review of World Energy June 2019	Oil - Crude prices since 1861			2019	左記出典を元に著者作成
341	日本と主要先進国の経済成長率の推移	グラフ	『近現代日本経済史要覧 補訂版』	41	三和良一・原朗編	東京大学出版会	2010	左記出典を元に著者作成
341	新自由主義の担い手たち	写真						アメリカ公文書館
342	第3次中東戦争時のイスラエルの占領地拡大	地図						著者作成
343	イラン=イスラーム革命	写真						時事通信社/時事通信フォト
343	イラン・アメリカ大使館占拠事件	写真						GettyImages
344	アフガニスタンのイスラーム武装勢力	写真						ユニフォトプレス
345	ゴルバチョフ	写真						ユニフォトプレス
345	チョルノービリ原子力発電所の事故	写真						ユニフォトプレス
346	ベルリンの壁の開放	写真						ユニフォトプレス
346	鄧小平	写真						ユニフォトプレス
346	天安門事件(集まった学生や市民)	写真						ユニフォトプレス
346	天安門事件(中国軍に制圧された広場の様子)	写真						ユニフォトプレス
347	南アフリカのマンデラ大統領	写真						時事通信社/時事通信フォト
347	マルタ会談	写真						ユニフォトプレス

申請図書			出典					備考
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者	発行年次等	
見返し裏	世界の自然	地図						著者作成
347	湾岸戦争	写真						ユニフォトプレス
348	保守派のクーデタの阻止を訴えるエリツイン	写真						時事通信社/時事通信フォト
348	独立国家共同体を構成する12カ国(1993年時点)	地図						著者作成
349	旧ユーゴスラヴィアの民族分布	地図						著者作成
350	南北首脳会談	写真						ユニフォトプレス
350	蔡英文	写真						時事通信社/時事通信フォト
351	インド北部でのモスク破壊事件	写真						アフロ
352	インティファダ	写真						時事通信社/時事通信フォト
353	EUのポスター	写真						ユニフォトプレス
353	ヨーロッパ統合の歩み	地図						著者作成
354	おもな国際機構や地域統合	地図						著者作成
355	同時多発テロで破壊される世界貿易センタービル	写真						アフロ
356	オバマ	写真						ユニフォトプレス
356	G20サミットに参加した各国の首脳(2019年、大阪)	写真						時事通信社/時事通信フォト
357	中村哲医師	写真						ユニフォトプレス
358	アインシュタイン	写真						ユニフォトプレス
358	東京電力福島第一原子力発電所の事故	写真						ユニフォトプレス
358	太陽光発電	写真						ユニフォトプレス
359	アポロ宇宙船の月面着陸	写真						ユニフォトプレス
359	最初期のコンピュータ	写真						ユニフォトプレス
361	立体派(ピカソ「アヴィニョンの娘たち」)	写真						ユニフォトプレス
361	シュルレアリスム(ダリ「記憶の固執」)	写真						ユニフォトプレス
361	メキシコの壁画運動	写真						ユニフォトプレス
362	ポップ=アート	写真						ユニフォトプレス
362	パンクハースト	写真						ユニフォトプレス
363	プライド=パレード	写真						ユニフォトプレス
363	ジェンダー=ギャップ指数(上位国およびおもな国の順位)	表	Global Gender Gap Report 2024		World Economic Forum		2024	左記出典を元に著者作成
365	戦争放棄に関する条約(不戦条約)	史料	『世界史史料10』	154	歴史学研究会編	岩波書店	2006	
裏見返し	現代の世界	地図						著者作成

(備考) 1 「申請図書」の欄については次のとおりとする。

- ① 「ページ」の欄には、引用又は新たに作成した教材や資料等の申請図書における掲載ページを示す。
- ② 「名称」の欄には、引用した教材や資料等の申請図書における名称を示す。
- ③ 「種別」の欄には、国語教材、楽譜、写真、図、挿絵、表、グラフ、地図などの別を示す。

2 「出典」の欄については次のとおりとする。

- ① 出典が一般図書の場合は、当該図書の名称(版次を含む。)、掲載ページ、著作者・編集者等、発行者及び発行年次を各欄に示す。
- ② 出典が定期刊行物の場合は、発行年次等欄に巻号、発行月日等を示す。
- ③ 出典が図書でない場合には、備考欄に資料提供者や保有者の氏名又は名称、及び当該資料に付された整理番号等を示すなど、出典を確認することが可能な情報を記入する。

3 出典を基に申請図書の発行者が改変を行った場合又は新たに作成を行った場合は、「備考」欄にその旨を示す。

4 (1) 写真等については、肖像権等の権利処理を必要に応じて行うこと。

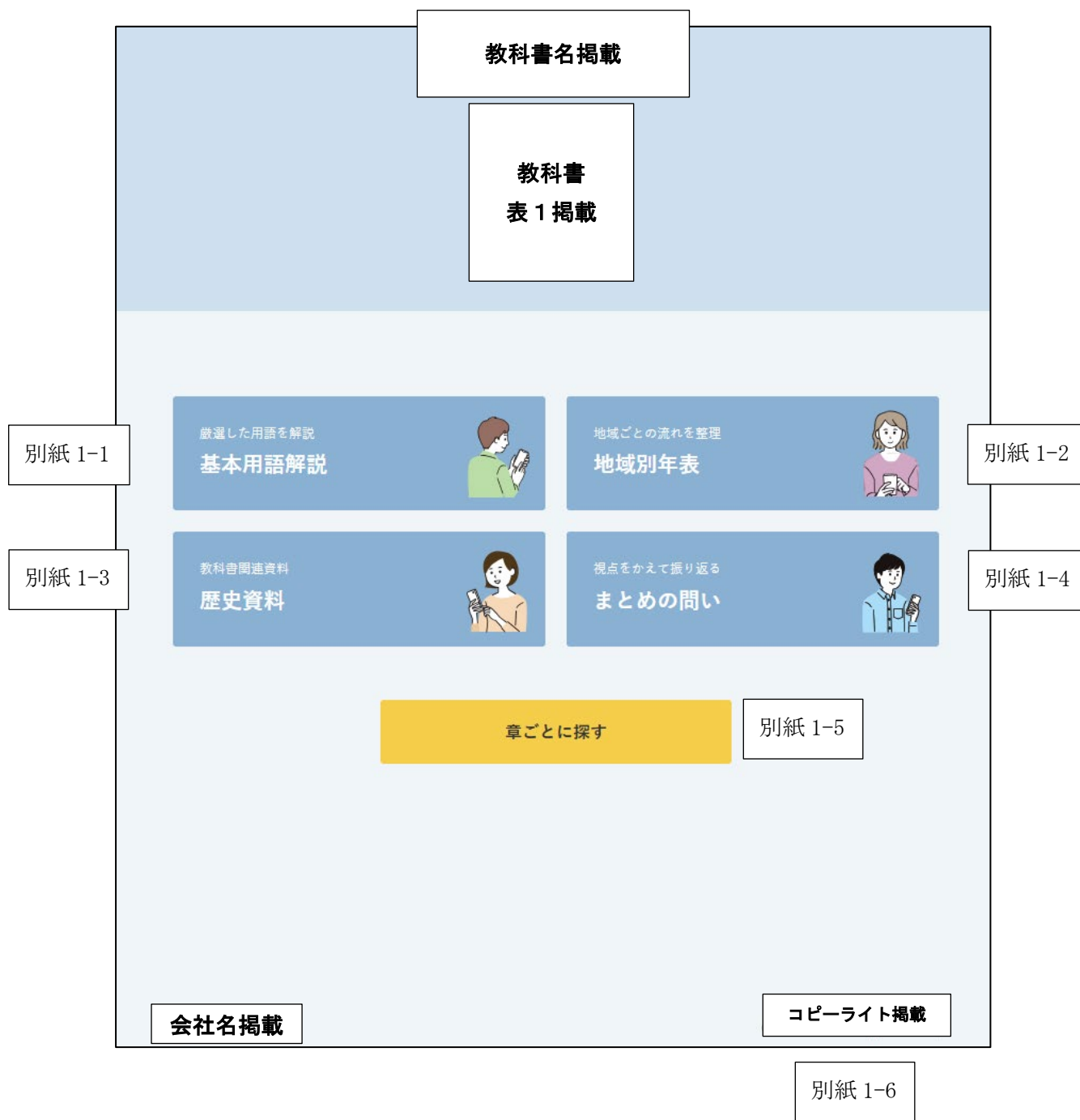
- (2) 著作物の掲載に当たっては、著作権法第33条に基づき、掲載する旨を著作者に通知するとともに、補償金を著作権者に支払う必要があることに留意すること(別途契約を締結する場合を除く)。


備考4の内容について確認しました。

## ウェブサイトのアドレスの掲載箇所一覧表

申請 函 書			学 習 上 の 参 考 に 供 す る 情 報			備 考
番号	ページ	種別	参照先	URL	概要	
1	3	URL	自社ページ	自社ページURL	教科書ポータルサイトへのリンク（各コンテンツへリンクさせるためのメニューページ）	別紙1
2	3	2次元コード	自社ページ	自社ページURL	同上	別紙1
3	18	2次元コード	自社ページ	自社ページURL	教科書ポータルサイトへのリンク（第1章トップ）	別紙2
4	37	2次元コード	自社ページ	自社ページURL	教科書ポータルサイトへのリンク（第2章トップ）	別紙3
5	54	2次元コード	自社ページ	自社ページURL	教科書ポータルサイトへのリンク（第3章トップ）	別紙4
6	63	2次元コード	自社ページ	自社ページURL	教科書ポータルサイトへのリンク（第4章トップ）	別紙5
7	85	2次元コード	自社ページ	自社ページURL	教科書ポータルサイトへのリンク（第5章トップ）	別紙6
8	102	2次元コード	自社ページ	自社ページURL	教科書ポータルサイトへのリンク（まとめの問い・第I部トップ）	別紙7
9	106	2次元コード	自社ページ	自社ページURL	教科書ポータルサイトへのリンク（第6章トップ）	別紙8
10	117	2次元コード	自社ページ	自社ページURL	教科書ポータルサイトへのリンク（第7章トップ）	別紙9
11	137	2次元コード	自社ページ	自社ページURL	教科書ポータルサイトへのリンク（第8章トップ）	別紙10
12	150	2次元コード	自社ページ	自社ページURL	教科書ポータルサイトへのリンク（第9章トップ）	別紙11


13	162	2次元コード	自社ページ	自社ページURL	教科書ポータルサイトへのリンク (第10章トップ)	別紙12
14	176	2次元コード	自社ページ	自社ページURL	教科書ポータルサイトへのリンク (第11章トップ)	別紙13
15	202	2次元コード	自社ページ	自社ページURL	教科書ポータルサイトへのリンク (まとめの問い・第Ⅱ部トップ)	別紙14
16	206	2次元コード	自社ページ	自社ページURL	教科書ポータルサイトへのリンク (第12章トップ)	別紙15
17	220	2次元コード	自社ページ	自社ページURL	教科書ポータルサイトへのリンク (第13章トップ)	別紙16
18	242	2次元コード	自社ページ	自社ページURL	教科書ポータルサイトへのリンク (第14章トップ)	別紙17
19	258	2次元コード	自社ページ	自社ページURL	教科書ポータルサイトへのリンク (第15章トップ)	別紙18
20	278	2次元コード	自社ページ	自社ページURL	教科書ポータルサイトへのリンク (第16章トップ)	別紙19
21	300	2次元コード	自社ページ	自社ページURL	教科書ポータルサイトへのリンク (第17章トップ)	別紙20
22	322	2次元コード	自社ページ	自社ページURL	教科書ポータルサイトへのリンク (まとめの問い・第Ⅲ部トップ)	別紙21
23	324	2次元コード	自社ページ	自社ページURL	教科書ポータルサイトへのリンク (第18章トップ)	別紙22
24	339	2次元コード	自社ページ	自社ページURL	教科書ポータルサイトへのリンク (第19章トップ)	別紙23



	基本用語解説	地域別年表	歴史資料	まとめの問い
-----------------------------------------------------------------------------------	--------	-------	------	--------

厳選した用語を解説

## 基本用語解説



世界史へのまなざし    第Ⅰ部    第Ⅱ部    第Ⅲ部    第Ⅳ部

### 世界史へのまなざし

**狩猟・採集**

旧石器時代における、おもな食糧獲得方法。狩猟は、食料や毛皮を得る目的でおこなわれる、簡単な武器やわなを用いて野生動物を捕獲する活動。採集は、木の実や根菜など、食料や生活に必要な植物を自然から集める活動。

**疫病**

急速に広がり、多数の人々に感染して被害をおよぼす流行病や伝染病。...

**精神文化**

人間の精神的な動きが生み出す文化で、物質文化に対する概念。哲学・宗教・芸術なども...

**年代記**

歴史上のできごとについて、いつ何がおきたかを時系列にそって書いた歴史書。...

**中流階級**

社会的地位や生活の程度が中程度の階層。近代では、上流階級と労働者階級のあいだに位...

### 第Ⅰ部

## 諸地域の歴史的特質の形成

時代区分	年代	出来事
	前5千年紀	中国文明 華北：黄河流域…彩陶の <b>文化</b> / 華中：長江文明…稲作 / 東北地方：遼河流域… 雑穀
	前3千年紀	華北：黒陶の <b>文化</b>
殷	前1600年頃	殷王朝創建… <b>青銅器文化</b> ・ <b>文字</b>
周	前11世紀頃	殷滅亡一周の華北支配 統治：分権的な <b>一族</b> ・功臣に封土を分与して世襲の諸侯に
春秋時代	前770年	周の東遷一 <b>運部</b> …春秋時代始まる 覇者(有力諸侯)による会盟
戦国時代	前403年	韓・魏・趙、諸侯として認められる一 <b>戦国時代</b> 始まる(「戦国の七雄」)
秦	<b>年</b>	秦王政、中国を統一(～前206) <b>始皇帝</b> 、 <b>制</b> 全国実施 / 都：咸陽
	前209年	<b>の乱</b> ：「王侯将相いずくんぞ種あらんや」
前漢	前202年	漢(前漢)建国(～後8) 高祖( <b>)</b> …「郡国制」採用 / 都：長安

別紙 1-2-1

中国史

地域ごとの流れを整理

## 地域別年表





	基本用語解説	地域別年表	歴史資料	まとめの問い
教科書関連資料 <b>歴史資料</b>				
<b>第1部</b> <b>諸地域の歴史的特質の形成</b>				
p.21	〔画像〕	ウルのスタンダード		別紙 1-3-1
p.22	〔史料〕	ハンムラビ法典		
p.35	〔画像〕	南北アメリカ文明		
p.41	〔画像〕	兵馬俑		
p.46	〔画像〕	南北朝時代の石窟や石刻		
p.53	〔画像〕	ソグド人のネットワーク		
p.59	〔画像〕	アジャンターの石窟寺院		
p.61	〔画像〕	アンコール=ワット回廊浮き彫り		
p.62	〔画像〕	ゴロブドゥール		
p.63	〔画像〕	ベヒストーン碑文		
p.63	〔史料〕	ベヒストーン碑文		
p.73	〔画像〕	ギリシア文化		

別紙 1-3 (教科書ポータルサイトの「歴史資料」一覧)

ページ	学 習 上 の 参 考 に 供 す る 情 報			備 考
	参照先	URL	概要	
21	自社ページ	自社ページ URL	ウルのスタンダード	別紙 1-3-1
22	自社ページ	自社ページ URL	ハンムラビ法典	別紙 1-3-2 別紙 1-3-3
35	自社ページ	自社ページ URL	南北アメリカ文明	別紙 1-3-4
41	自社ページ	自社ページ URL	兵馬俑	別紙 1-3-5
46	自社ページ	自社ページ URL	南北朝時代の石窟や石刻	別紙 1-3-6
53	自社ページ	自社ページ URL	ソグド人のネットワーク	別紙 1-3-7
59	自社ページ	自社ページ URL	アジャンターの石窟寺院	別紙 1-3-8
61	自社ページ	自社ページ URL	アンコール=ワット回廊浮き彫り	別紙 1-3-9
62	自社ページ	自社ページ URL	ボロブドゥール	別紙 1-3-10
63	自社ページ	自社ページ URL	ベヒストゥーン碑文 (画像)	別紙 1-3-11
63	自社ページ	自社ページ URL	ベヒストゥーン碑文 (史料)	別紙 1-3-12 別紙 1-3-13
73	自社ページ	自社ページ URL	ギリシア文化	別紙 1-3-14
74	自社ページ	自社ページ URL	パルテノン神殿とその彫刻	別紙 1-3-15
87	自社ページ	自社ページ URL	ウマイヤ=モスク	別紙 1-3-16
88	自社ページ	自社ページ URL	イスラーム文化	別紙 1-3-17
99	自社ページ	自社ページ URL	バイユー刺繍画	別紙 1-3-18
112	自社ページ	自社ページ URL	イェルサレムの旧市街	別紙 1-3-19
116	自社ページ	自社ページ URL	アルハンブラ宮殿の装飾	別紙 1-3-20
123	自社ページ	自社ページ URL	サン=ヴィターレ聖堂のモザイク	別紙 1-3-21
134	自社ページ	自社ページ URL	中世の教会建築	別紙 1-3-22

ページ	学 習 上 の 参 考 に 供 す る 情 報			備 考
	参照先	URL	概要	
134	自社ページ	自社ページ URL	騎士道物語	別紙 1-3-23 別紙 1-3-24
140	自社ページ	自社ページ URL	「清明上河図」	別紙 1-3-25
147	自社ページ	自社ページ URL	「混一疆理歴代国都之図」	別紙 1-3-26
151	自社ページ	自社ページ URL	鄭和艦隊の航海図	別紙 1-3-27
155	自社ページ	自社ページ URL	「坤輿万国全図」	別紙 1-3-28
165	自社ページ	自社ページ URL	イマームのモスク	別紙 1-3-29
168	自社ページ	自社ページ URL	タージ=マハルの壁面装飾	別紙 1-3-30
179	自社ページ	自社ページ URL	ルネサンス期の美術	別紙 1-3-31
183	自社ページ	自社ページ URL	バロック様式	別紙 1-3-32
207	自社ページ	自社ページ URL	産業革命期の技術革新	別紙 1-3-33
213	自社ページ	自社ページ URL	人権宣言	別紙 1-3-34 別紙 1-3-35
215	自社ページ	自社ページ URL	「ナポレオンの戴冠式」	別紙 1-3-36
239	自社ページ	自社ページ URL	19 世紀欧米の美術	別紙 1-3-37
245	自社ページ	自社ページ URL	オスマン帝国憲法	別紙 1-3-38 別紙 1-3-39
252	自社ページ	自社ページ URL	マカートニーの中国訪問記	別紙 1-3-40 別紙 1-3-41
259	自社ページ	自社ページ URL	「白人の責務」への風刺画	別紙 1-3-42
299	自社ページ	自社ページ URL	フセイン・マクマホン協定とバルフォア宣言	別紙 1-3-43 別紙 1-3-44

ページ	学 習 上 の 参 考 に 供 す る 情 報			備 考
	参照先	URL	概要	
312	自社ページ	自社ページ URL	ヤルタ協定	別紙 1-3-45 別紙 1-3-46
314	自社ページ	自社ページ URL	国際連合憲章	別紙 1-3-47 別紙 1-3-48
314	自社ページ	自社ページ URL	世界人権宣言	別紙 1-3-49 別紙 1-3-50



ウルのスタンダードの「戦争の場面」

下段から中段、上段へと場面が移るように構成されている。4輪戦車や捕らえられた兵士などが描かれていることから、「戦争の場面」と呼ばれている。

全画面モード

(資料番号入る) p.21

ウルのスタンダード

YVHA703100



# ハンムラビ法典



【プレビュー】もしくは  
【全画面モード】で  
閲覧できます。

(テキストファイル / 1.86KB)



プレビュー  全画面モード

(教科書名入る) p.22

ハンムラビ法典

YWH10503100  
提供元: 中田一彰訳『ハンムラビ法典』

## ハンムラビ法典（抜粋）

……そのとき、アヌムとエンリル<sup>①</sup>は、ハンムラビ、敬虔なる君主、神々を畏れる私を、国土に正義を照らすために、悪しき者那（よこしま）なる者を滅ぼすために、強き者が弱き者を虐げることがないために、太陽のごとく人々の上に輝きいで国土を照らすために、人々の肌（の皮つや）を良くするために、召し出された。……

1. もし人が（他の）人を起訴し、彼を殺人（の罪）で告発したが、彼（の罪）を立証しなかったなら、彼を起訴した者は殺されなければならない。
53. もし人が自分の耕地の畔（あぜ）の強化を怠り、その畔を強化せず、（そのため）自分の畔に亀裂が生じ、（灌漑）水で耕地（の大麦）を流出させたなら、自分の耕地に亀裂が生じた人は、彼が流出させた大麦を償（つくな）わなければならない<sup>②</sup>。
104. もし商人が行商人に大麦、羊毛、油あるいはその他の品物を販売のために与えたなら、その行商人は商人に定期的に銀を返さなければならない。行商人は、彼が商人に与える銀の捺印証書（納收書）を受け取らなければならない。
108. もし居酒屋の女主人がビールの債として大麦を受け取らず、銀を大きな分額で（計って）受け取り、その結果大麦の販売価格に対するビールの販売価格をつり上げたなら（直訳：【一定額の銀で得られる】大麦の量に対し【一定額の銀で得られる】ビールの量を少なくしたなら）、彼はその居酒屋の女主人の不法行為を立証しなければならない。
195. もし息子が彼の父親を殺ったなら、彼らは彼の腕を切り落さなければならない。
196. もしアウィールム（上層自由人）がアウィールム仲間の目を損なったなら、彼らは彼の目を損なわなければならない。
199. もし彼がアウィールムの奴隷の目を損なったかアウィールムの奴隷の骨を折ったなら、彼は彼（奴隷）の値段の半額を支払わなければならない。
264. もし牛あるいは【小家畜】の【放牧】を寄【託された】【牧夫が、】彼の【全】労賃を受け取って満足し、牛（の数）を減らしたり【小】家畜（の数）を減らしたり、子供の出産を少なくしたなら、彼は彼の契約にしたがって（小家畜の）子供と産物を与えなければならない。

（中田一郎訳『ハンムラビ「法典」』より）

<sup>①</sup>アヌムは天守の神で、バビロニアの神々のなかの至高神。エンリルは大気やそれに関する諸現象（風・雨・嵐など）の神で、バビロニアの神々のなかで「王」にあたる。

<sup>②</sup>「人々の暮らしをよくするために」の意。

<sup>③</sup>メソポタミアでは隣年で耕作をおこなう制度がとられ、農地は耕区と休耕区に分けられていた。また、1つの耕区に複数の人々の農地が含まれていた。

（教科書名入る） p.22

## ハンムラビ法典

YWHDS03100

提供元：中田一郎訳『ハンムラビ「法典」』



チャビン=デ=ワンタル遺跡

ペルー中部に位置する、チャビン文化の代表的な神殿遺跡。その内部には回廊と称される地下通路が張り巡らされており、さらに主神とみられる巨大なランソン像がおかれていた。



☒ 全面画モード

(教科書名入る) p.35

南北アメリカ文明

YVHA703200



多様な造形の兵馬俑

兵馬俑の造形の多様性には、階級や地位を示す身なりの差だけでなく、出身地域に応じた顔つきの違いなども反映されている。

☒ 全画面モード

(教科書名入る) p.41

兵馬俑

YVHA703300





龍門の石窟寺院①

北魏・孝文帝による洛陽遷都後、近郊の龍門で石窟寺院の造営が始まった。龍門の仏像は西方の影響が強かった曇首のものに比べて勢屈気が変わり、漢族風の服袂など中国的な色彩が濃い。造形も繊細になり、面長な顔つきや、なで肩の体型といった特徴をもつ。図は6世紀初めに造営された賓陽中洞の仏像。

☒ 全画面モード

(教科書名入る) p.53

南北朝時代の石窟や石刻

YWA703400



ソグド人のネットワーク

(森部 豊『安祿山：「安史の乱」を起こしたソグド人』〈世界史リブレット人18〉山川出版社、2013年をもとに作成)

☒ 全画面モード

(教科書名入る) p.53

ソグド人のネットワーク

YVHA703500





#### アジャンターの石窟寺院（外観）

アジャンターはインド西部・マハラシュトラ州に位置する。19世紀前半、イギリス人によって、タブティー川の支流に臨む玄武岩丘陵の中腹に大小30の石窟が発見された。同地は南北を結ぶ古代の交易ルートに接し、サータヴァーハナ朝時代の前2世紀頃から石窟がつくられはじめた。数世紀中断したのち、グプタ朝時代の5世紀頃に再び造営が盛んになったが、7世紀以後には衰退した。

☒ 全画面モード

(教科書名入る) p.59

アジャンターの石窟寺院

YWA703600





アンコール=ワットの回廊の様子

☒ 全画面モード

(教科書名入る) p.61

アンコール=ワット回廊浮き彫り

YVHA703700





ボロブドゥールの回廊の様子

☒ 全画面モード

(教科書名入る) p.62

ボロブドゥール

YVHA703800





#### ベヒストゥーン碑文

イラン西部の都市ケルマンシャー近郊に位置するベヒストゥーンの崖面に刻まれた碑文。ダレイオス1世の戦功を記念したもので、捕虜を引見する王（左から3人目）や、その上部のアフラ＝マズダ神の浮き彫り、および3種類の言語（古代ペルシア語・エラム語・バビロニア語）による長文のテキストが刻まれている。19世紀にイギリスのローリンソンがこの碑文を模写し、それをもとに楔型文字の解読を進めた。



🔍 全画面モード

(教科書名入る) p.63

#### ベヒストゥーン碑文

YWHA703900

# ベヒストーン碑文



【プレビュー】もしくは  
【全画面モード】で  
閲覧できます。

(テキストファイル / 206byte)



プレビュー  全画面モード

(教科書名入る) p.63

ベヒストーン碑文

YWH0503200

## ダーラヤワ1世ベヒストゥーン大碑文（前521年）

【第1欄1-6行】私はダーラヤワ①である。偉大な王であり、王の中の王である②。ペルシアの王にして、諸国の王である。ウシュタースバの息子で、アルシャーマの孫であり、ハカーマニシュ③の血統である。…（中略）…

①「1-24行」ダーラヤワは王として宣言する。アフラマズダー④の恩恵により私は王である。アフラマズダーは私に王権を授けた。ダーラヤワは王として宣言する。アフラマズダーの恩恵により、私に贈られた。私が王となった国々は、パールサ（ペルシア）、ウーグジャ（エラム）、バービル（バビロニア）、アスラー（アッシリア）、アラバーヤ（アラビア）、ムドラヤ（エジプト）、海岸地域、スバルダ（サルディニア）、セウナ（イオニア）、マータ（メディア）、アルミナ（アルメニア）、カトバトッカ（カッパドキア）、バルサワ（バルティア）、スランカ（ドランキア）、ハライワ（アリア）、ウーラズミー（コラスミア）、パークトリ（パクトリア）、スタダ（ソグディアナ）、ガンターラ、サカ（スキタイア）、サタグ（サッタキヤ）、ハラウテイ（アラコシア）、マカ（マクラーン）、の附録である。ダーラヤワは王として宣言する。アフラマズダーの恩恵により、これらの国々は、私に贈られ、私に服従し、私に貢物を献じた。私が彼らに命じたことには、あるいは夜に命じたことは、実行された。ダーラヤワは王として宣言する。これらの国々において、忠実な者に私は恩恵を与え、不忠実者を罰し罰した。アフラマズダーの恩恵により、これらの国々は私の法を厳守した。私が彼らに命じたとおりに、実行された。

（歴史学研究会編『世界史史料』岩波書店、2012年より、一部改変）

①タレイオス（1世）のペルシア語での読み方。

②「王の中の王」という表現は、その後のイランの帝王の称号となり、その伝説は近代のパフレヴィー朝「シャーハーン・シャー」にまで連続する。

③一般にアケメネス、またはアカイメネスと称され、アケメネス（アカイメネス）朝の名は彼に由来する。

④ゾロアスター教の最高神アフラマズダーは、古代ペルシア語ではアウラマズターと称され、王家の守護神とされた。

 プレビューを閉じる  ダウンロード  全画面モード

（教科書名入る） p.63

ベヒストゥーン碑文

YWH503200



「アテナ女神像」(フェイディアス作)

本図はローマ時代に複製された大理石像(高さ1.05m)。オリジナルはパルテノン神殿の主神として制作され、高さ13mの巨大なものであったとされるが、現存していない。

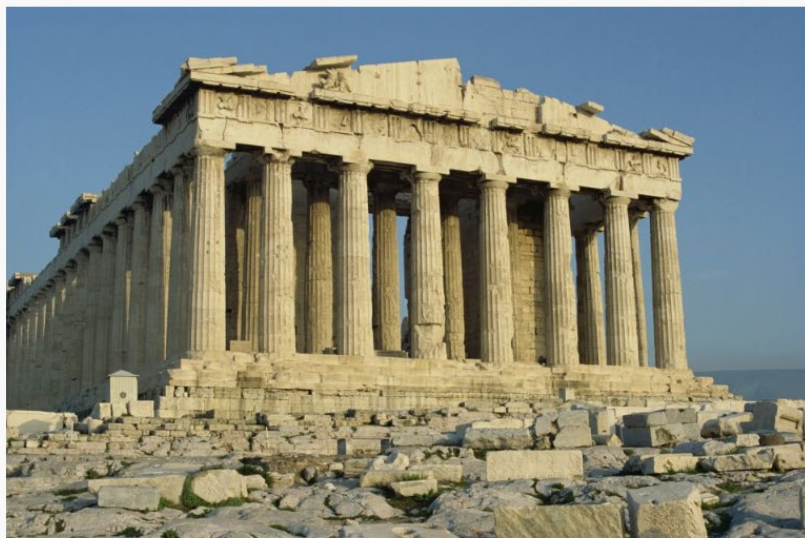
☒ 全画面モード

(教科書名入る) p.73

ギリシア文化

YWHA704000





パルテノン神殿（近景）

☒ 全画面モード

（教科書名入る） p.74

パルテノン神殿とその彫刻

YWHA704100





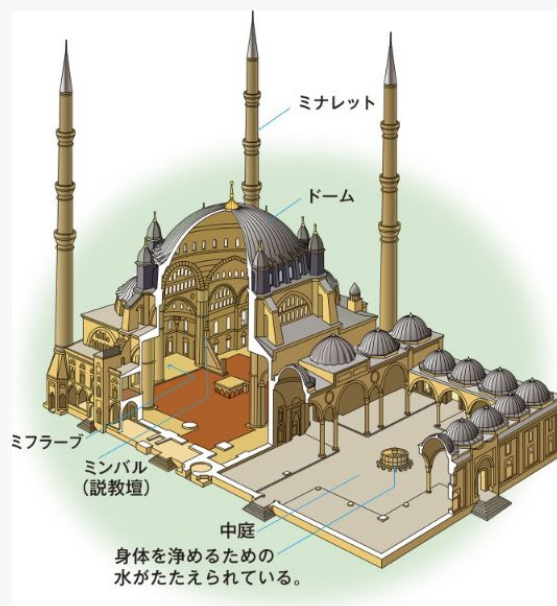
ウマイヤ=モスク、正面アーケードのモザイク

✖ 全画面モード

(教科書名入る) p.87  
ウマイヤ=モスク

YVHA704200





#### モスクの基本的な構造

モスクはイスラーム教の礼拝所。通常、礼拝の方向（聖地メッカの方角）を示すミフラーブ（壁のくぼみ）、ミンバル（説教壇）、礼拝を呼びかけるためのミナレット（塔）などが備えられる。メディナにある「預言者のモスク」の建築様式をその原型とするが、その形態についてとくに規定があるわけではなく、地域やその風土にあわせて様々な様式のモスク建築が存在する。図は、オスマン帝国のもとで建設されたスレイマン＝モスク（p.163）で、ドームを備えたオスマン様式。



☒ 全画面モード

（教科書名入る） p.88

イスラーム文化

YVHA704300



バイユー刺繍画①

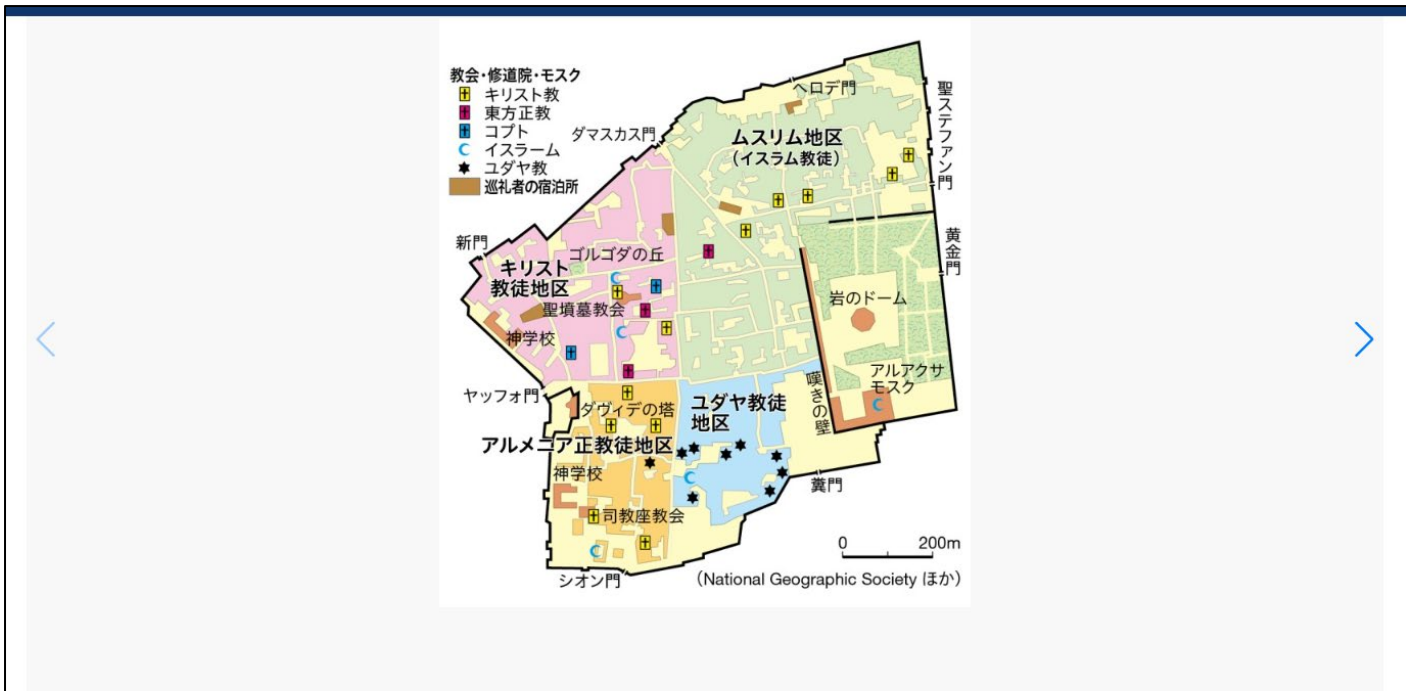
バイユー刺繍画には、ウィリアムによるノルマン＝コンクエストの一連の流れが描写されている。図は、凶死のように現れたハレー彗星(上)に驚くイングランドの人々(左)と、ウィリアムと対決することになるイングランド王(右端)。

✖ 全画面モード

(教科書名入る) p.99  
バイユー刺繍画

YWHA704400





エルサレムの旧市街

エルサレムは、ユダヤ教・キリスト教・イスラム教という3つの一神教すべてにわたる聖地である。旧市街は城壁に取り囲まれ、その内部は宗教や教派ごとに区分けされている。なお、城壁は16世紀前半にオスマン帝国によって再築されたもの。

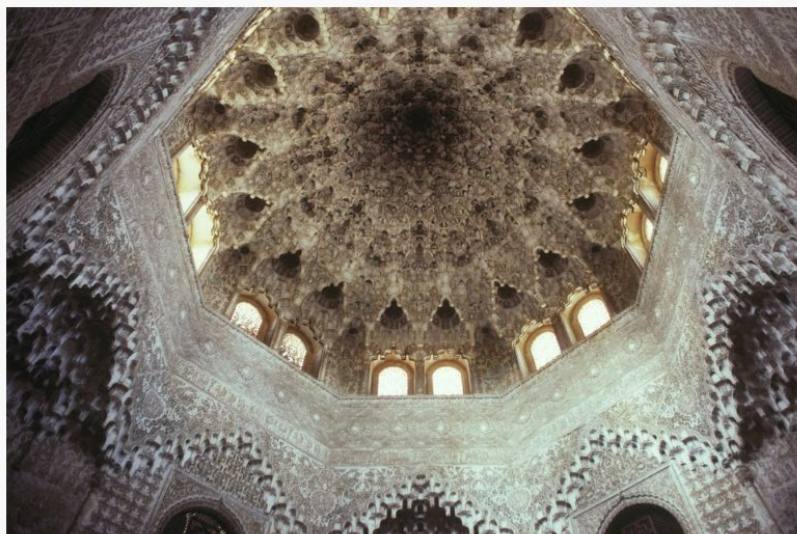


☒ 全画面モード

(教科書名入る) p.112

エルサレムの旧市街

YWA704500



アルハンブラ宮殿「2姉妹の間」  
天井の瘦乳石(しようにゅうせき)飾りを特徴とする。

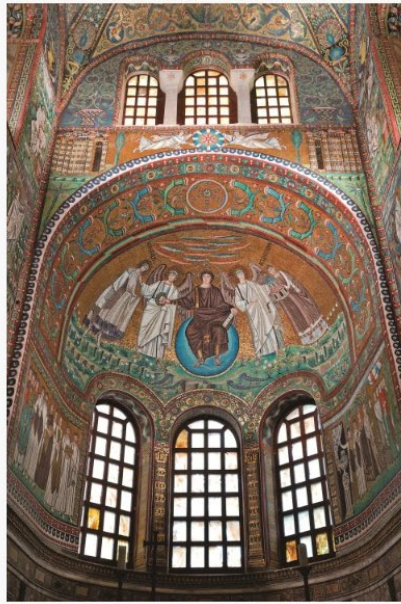
☒ 全面画モード

(教科書名入る) p.116

アルハンブラ宮殿の装飾

YWHA704600





サン＝ヴィターレ聖堂のモザイク

左右で向き合うように描かれた中段のユスティニアヌス大帝とその妃テオドラが、上段中央のキリストを礼賛している。

☒ 全画面モード

(教科書名入る) p.123

サン＝ヴィターレ聖堂のモザイク

YWHA704700





#### ピサ大聖堂

11世紀半ばに建設が始まり、12世紀に完成した、ロマネスク様式としてとくに有名な教会堂（イタリア）。ただし、建設が長期にわたったことや、完成後も増築・改築がおこなわれたことから、ロマネスク様式にとどまらず様々な建築様式が用いられている。



☒ 全画面モード

(教科書名入る) p.134  
中世の教会建築

YVHA704800

# 騎士道物語



【プレビュー】もしくは  
【全画面モード】で  
閲覧できます。

「ローランの歌」(抜粋)と「ニーベルンゲンの歌」(抜粋)

個別ダウンロード (テキストファイル / 2.19KB)



[プレビュー](#) [ダウンロード](#) [全画面モード](#)

(教科書名入る) p.134

騎士道物語

YWHDS03300

提供元：江上波夫監修『新編世界史史料・名書集』

## ローランの歌（抜粋）

ローランは、戦の崖に馬を進め、斬るも裂くも自在の名刀デュランダルを手に、サラセン（イスラーム）勢を攻めまくり、与えし損害測り知れず。腕（しかばね）は察々（るいりい）として、鮮血四方に飛散し、見るもすさまじ。ローランは、銀鍔子（くさりかたびら）・両袖ともに血にまみれ、俊馬また首も肩も紅に染まる。オリヴィエ①も遅れをとりじと討って出で、十二臣将②打ち揃いてその武勇輝るところなし。フランス勢なおも進みて、とどまるどころを知らざれば、異教徒ども相次いで斃（たお）れ、気を失う者もあり。（106段）

ローラン、死の密を捉えんとし、頭より胸へと下り来るを憂ゆるや、松の木かげに急ぎ行きて、株の間に、力尽きんとするその身を構えたり。剣・勇笛（つづえ）は身の下に納め、頭は彼方異教徒の軍勢に向けたり。かくあすは、シャルル（カール）大帝ならびに彼と共に戦いし者らの、「気高き翁、勝者として偲れり」と言わんことを、切に希めばなり。ローラン幾たびか胸を打ちて罪の赦（ゆる）しを請い、神に向けてその權手（こて）をさしのべぬ。（175段）

（江上波夫監修『新訳 世界史史料・名言集』）

①ローランの親友。②ローラン、オリヴィエら、カール大帝が選んだ12人の武將。

## ニーベルングの歌（抜粋）

ヒルデブラント①は、怒りたってクリムヒルト②にむけておそいきかり、剣をもってこの王妃をはげしく打った。王妃は、ヒルデブラントにおそれ、おののき、すさまじい悲鳴をばりあげた。しかし、それは無益のわざだった。かくして、死すべきものすべてが倒れたのである。高貴な王妃は、二つに切りさかれた。ティエトリ③とエツェル④とは、これを見て、なげき、悲しんだ。二人の王は、その近親知己の運命をなげいた。栄誉にみちた多くの人びとは、こうして死をげた。みな世の人びとは、塵きと悲しみにうちひしがれていた。王者たちの妻（うたげ）は、こうして悲愴の體をしたのである。このものも、いずれの世においてあれ、喜びは悲しみにいたって、終りをつけるものなのである。これにつく事の次第は、皮（なんじ）らに告げるすべもない。ただ、騎士や高位の臣下たちが、この突する一族の運命を悲しんでいるさまだけのみられた。物語はこれにて終る。これがニーベルングの災禍であった。

（江上波夫監修『新訳 世界史史料・名言集』）

①東ゴートの将軍。②物語の主人公。英雄ジープフリートの妻となったが、夫が殺されたのち、フン人の王エツェルの妃となり復讐のため多くの人命を失わせた。③東ゴート王テオドリック。④フン人の王アッティラ。

 プレビューを閉じる  ダウンロード  全画面モード

（教科書名入る） p.134

## 騎士道物語

YWH0503300

提供元：江上波夫監修『新訳世界史史料・名言集』



「清明上河図」

本図は北京の故宮博物院に保存されているもの。

全画面モード

(資料番号入る) p.140

「清明上河図」

YWH704900



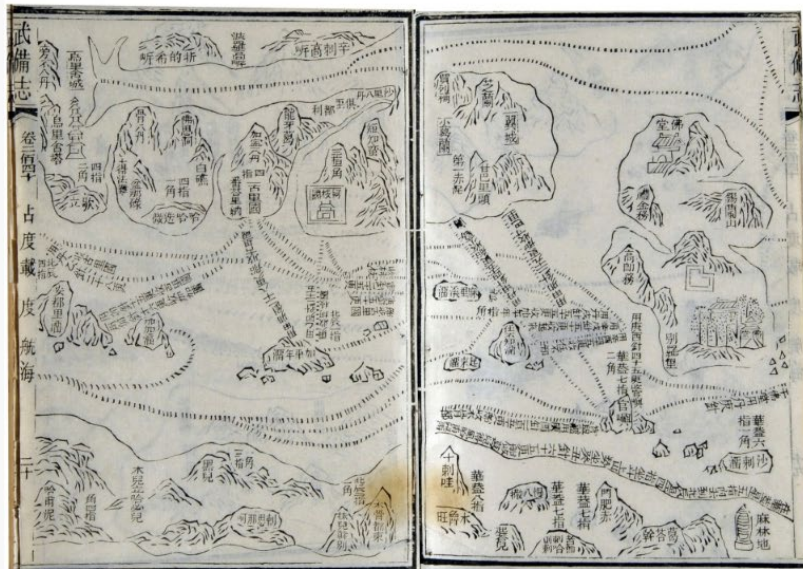


☒ 全画面モード

(教科書名入る) p.147

「混一疆理歴代国都之図」

YVWA705000  
提供元：早稲田大学史料館



鄭和艦隊の航海図

17世紀前半に編纂された『武備志』には、鄭和の航海図が含まれている。図中央には「柯枝圖」の文字がみえるが、これはインドのコーチン(現在はコーチ)と考えられる。

☒ 全画面モード

(教科書名入る) p.151

鄭和艦隊の航海図

YVHA705100



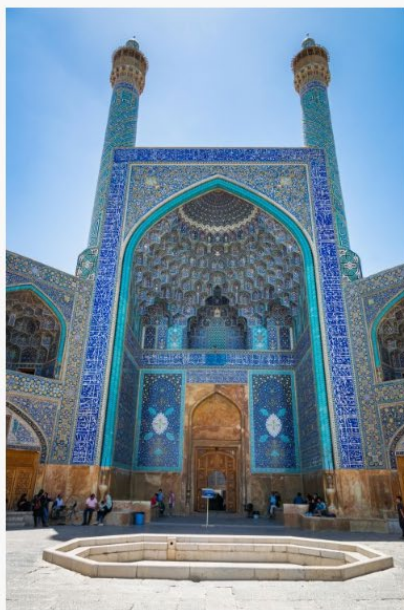


☒ 全画面モード

(教科書名入る) p.155

「坤輿万国全図」

YWHA705200



「イマームのモスク」(正面入口の門)

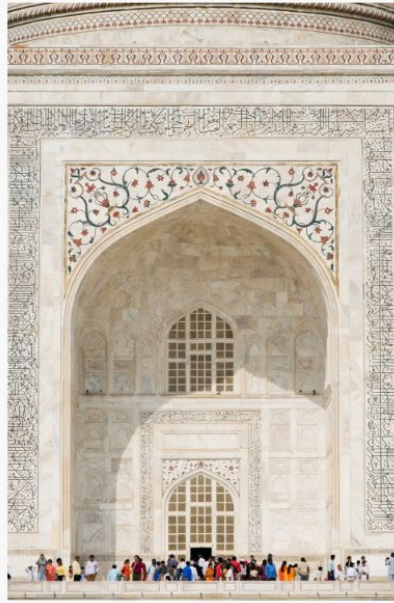
☒ 全画面モード

(教科書名入る) p.165

イマームのモスク

YWA705300





タージ=マハルの壁面装飾(正面入口)

☒ 全画面モード

(教科書名入る) p.168

タージ=マハルの壁面装飾

YWHA705400





サンタ=マリア大聖堂

右側にみえるのが、ブルネレスキが完成させた大円蓋。



🗖️ 全画面モード

(教科書名入る) p.179

ルネサンス期の美術

YWHA705500



「宮廷の侍女たち（ラス=メニーナス）」（ベラスケス作）

ベラスケスは、宮廷画家としても活躍したスペインの代表的画家。光線の表現に独特の工夫を示し、スペイン王女やその侍女たちを描いた本画などの優れた肖像画や、神話を題材とする作品を描いた。



☒ 全画面モード

(教科書名入る) p.183

バロック様式

YWA705600



飛び杼

ジョン=ケイが発明し、これにより織布の作業効率が数倍に上昇した。

☒ 全画面モード

(教科書名入る) p.207

産業革命期の技術革新

YWHA705700



# 人権宣言



【プレビュー】もしくは  
【全画面モード】で  
閲覧できます。

(テキストファイル / 1.93KB)



プレビュー  全画面モード

(教科書名入る) p.213

人権宣言

YWH0503400

提供元：江上波夫監修『新版世界史史料・名言集』

## 人権宣言（抜粋）

- 第1条  
人間は自由かつ権利において平等なものと生まれ、また、存在する。社会的な差別は、共同の利益に基づいてのみ、設けることができる。
- 第2条  
あらゆる政治的結合（国家）の目的は、人間の自然で特効により消滅することのない権利の保全である。それらの権利とは、自由・所有権・安全および反抗への抵抗である。
- 第3条  
あらゆる主権の原理（起源・根源）は、本質的に国民のうちに存する。いかなる団体、いかなる個人も、国民から明白に由来するのではない権威を、行使することはできない。
- 第4条  
自由とは、他人を害することのないすべをなうことにある。したがって、各人の自然権は、社会の他の成員に同じ権利の享有を保障する限界以外に、限界をもたない。それらの限界は、法によってのみ定めることができる。
- 第5条  
法は社会にとって有害な行為のみを禁じる権利を有する。法の禁止していないことがらば、すべて妨げられることをえず、また、何人も法の命じていないことをおこなうよう強制されることはない。
- 第6条  
法は総論（一般意思）の表現である。すべての市民は、自身で、またはその代表者を通じて、法の作成に参与する権利を有する。法は、市民を保護する場合であれ、処罰する場合であれ、すべての市民に対し同一でなければならない。すべての市民は、法の眼からすれば平等であるから、その能力に応じて、また、その徳性と才能以外のいかなる差別もなく、平等にすべての公けの位階・地位・職務に就くことが許される。
- 第10条  
何人も、その意見のゆえに、それが宗教上の意見であっても、その表明が法の定める公共の秩序を乱さないかぎり、平穏をおびやかされてはならない。
- 第11条  
思想および意見の自由な伝達は、人間のもっとも貴重な権利の一つである。したがって、すべての市民は自由に語り、書き、印刷することができる。ただし、その自由の乱用に関し、法の定める場合においては、責任を負わなければならない。
- 第17条  
所有権は神聖かつ不可侵の権利であるから、何人も、憲法に確認された公共の必要が明白にそれを要求する場合であって、また、事前の公正な補償の条件のもとでなければ、それを奪われることはない。  
（江上波夫監修『新訳 世界史史料・名言集』）

 プレビューを閉じる  全画面モード

（教科書名入る） p.213

## 人権宣言

YWH0503400

提供元：江上波夫監修『新訳世界史史料・名言集』



「ナポレオンの戴冠式」(タヴィド作、縦6.21 m×横9.79 m)

☒ 全画面モード

(教科書名入る) p.215

「ナポレオンの戴冠式」

YVHA705800





「落穂拾い」(ミレー作)

☒ 全画面モード

(教科書名記入) p.239

19世紀欧米の美術

YWHA705900



# オスマン帝国憲法



【プレビュー】もしくは  
【全画面モード】で  
閲覧できます。

(テキストファイル / 2.81KB)



プレビュー  全画面モード

(教科書名入る) p.245

オスマン帝国憲法

YVHDS03500

提供元：粕谷元編『トルコにおける憲法制の発展』

## オスマン帝国憲法（抜粋）

前文  
朕（ちん）（アブデュルハミド2世）の恐れ高き宰相ミドハト＝パシャ  
かねてより朕の至高なる国家の権勢に生じている危機は、国外からの凶悪というよりもむしろ、国内の施政が正道から逸脱したことにより、そして臣民がその臣属する政府に抱く信頼を保持すべき絆が弛緩（しかん）し始めたことにより生じたのであり、故に、朕の尊父、故アブデュルメジト帝が、改革の原理及び尊きイスラーム法の神聖なる規定に適合するものとして、全臣民の生命、財産、尊厳、名誉の保護を重んずるべく、タンジマト勅令を交付したのであった。……朕の究極の目的は、……〔あらゆる〕順位の臣民が連年の過を一致団結して進むという誓いしことにほかならない。この目的に到達するためには政府が健全で秩序だった治理を採行することが必要であるが、これはまた、……不正な行動、すなわち個人や少数者による専制的支配から生じる過酷や濫用についてはこれを廃絶し、そして我々の社会を構成するさまざまな民族が文明社会に相応しい権利と利益——これは万民が自由、公正、平等の地帯を例外なく享受することであるが——これらの利益を保障することが条件である。この諸原則に必要なものは、法律と国政を合議と立憲制という正確な原理に依拠せしめるという確実に最善なことであるが故に、帝國議會を組織する必要性が、朕の即位宣言に関する朕の勅令で宣言されたのであった。……

第3条  
オスマンの至高なるスルタン位はイスラームの偉大なるカリフ位を有し、古来の方法に従ってオスマン家の最年長男子に傳ずる。

第4条  
スルタン陛下はカリフ位によりイスラーム教の守護者であり、全オスマン臣民の元首にしてスルタンである。

第8条  
オスマン国籍を有する者は全て、いかなる宗教及び宗派に属しようとも、例外なくオスマン人と称される。……

第10条  
個人の自由はいかなる類の侵害からも保護される。何人も法律の定める理由及び手段を除いては、いかなる口実によっても処罰されない。

第11条  
オスマン帝国の国教はイスラーム教である。この原則を遵守し、かつ人民の安全又は公序良俗を侵さない限り、オスマン帝國において認められているあらゆる宗教行為の自由、及び諸々の宗派共同体に与えられてきた宗教的特権の従来通りの行使は、国家の保護の下にある。

第15条  
教育は自由である。定められた法律を遵守する限りにおいて、オスマン人は公私の教育を施すことができる。

第17条  
全てオスマン人は法律の前に平等であり、宗教宗派上の事項を除き、国に対する権利及び義務において平等である。

第18条  
オスマン臣民が公務に任用されるためには、国家の公用語であるトルコ語を解することが条件である。

第13条  
国王の一部で混札の生じることが確かな証象又は證據が認められる場合、至愚の「オスマン」政府は、その地域に限り、臨時に「戒厳」を布告する権利を有する。「戒厳」とは民政上の法律及び命令を一時的に停止することであり、「戒厳」下に置かれる地域の行政方法は、特別の法令によって定められる。国家の安全を侵害したことが、治安当局の確かな調査により明らかになった者を、神護の「オスマン」帝國領から追放し、退去させることは、ただスルタン陛下のみが行使することのできる権限である。

（松谷元編『トルコにおける議會制の展開』）

プレビューを閉じる  全画面モード

（教科書名入る）p.245

## オスマン帝国憲法

YMH0503500

提供元：松谷元編『トルコにおける議會制の展開』

## マカートニーの中国訪問記



【プレビュー】もしくは  
【全画面モード】で  
閲覧できます。

(テキストファイル / 2.4KB)



プレビュー  全画面モード

(教科書名入る) p.252

マカートニーの中国訪問記


YWH0503600

提供元：改訂正高友注『中国訪問記』

## マカートニーの中国訪問記（抜粋）

1794年1月  
インドにあるわれわれの植民地は、その中国貿易がちょっとした途絶えれば非常に大損害をこうむるだろう。中国貿易は、それだけを切り放して棉花とアヘンの市場としてみた場合でも、フィリピン群島およびマレー地方との冒險的販売と関連したものとしてみた場合でも、計り知れない損害のあるものなのである。  
大英国（グレートブリテン）にとっての打撃は即時に現われ、かつ深刻であろう。わがイングランドの昔ながらの主要商品である偉大な毛織物工業は、政府がどれほど油断なく活動的であっても、長期間にわたって閉すことも軽くすることもできかねるような、突然の大動揺を経験するであろう。わが国の毛織物だけに対するカントンからの需要は、現在、間違いない50万ポンドないし60万ポンドを下らない。配慮よろしきを待れば、何年かうちに需要を100万ポンドにまで伸ばせると考えてよい。われわれは中国への輸出が伸びつつある他の諸部門、すなわち絹（すず）、鉛、銅、金銀製品、香料、漆、中時計、その他類似の精密工業の製品の取引を失うであろう。中国から買う物についていえば、わが国の精製品にとって不可欠の材料である中国の生糸ばかりでなく、もう一つの不可欠の贅沢品、というよりは絶対不可欠の生活必需品たる茶をも輸入できなくなるであろう。……  
以上のようなさまざまな災いが、中国と不和になると必ずおこさざるをえないように思われる。……ところが、私が心配の種として前述したようなさまざまな不便や害のすべてが、中国とわが国が不和にならなくても、あるいはまたわれわれの方が何も手を出さなくても、事の普通の流行そして起こることありうる。中華帝国は有能で油断のない運命主がついたおかげで常に50年間どうやら無事に浮かんできて、大きな国体と外観だけのものである。近隣諸国をなんとも異物（いぶ）と見てきた。喜びで開口直に罵った軽蔑態に等しい。しかし、ひとたび無能な人間が甲斐に立つて指図をとることになれば、必ずや法の規律は緩み、安全は失われる。國はすぐには沈没しないで、しばらくは寶藏船として漂流するかもしれない。しかし、やがて岸にぶつけて粉微塵（こなみじん）に砕けるであろう。この船をもとの船底の上に再び取り出すことは絶対に不可能である。  
中国の腐力が衰頹した場合には（これは決しておこりえないことではない）、アジア貿易が根底から破壊されるばかりでなく、世界の他の諸地方との貿易にも著しい変化がおこるだろう。……しかし、大英国はその富力と国民の天賦の才と胆力にものをいわせて、政治的にも、海軍力からいっても、商業国長としても、地球上における第一の強国になっているから、私が前述したような急激な変動によって一冊得をして、すべての競争相手の上になつことにならう。

（マカートニー著、坂野正高訳『中国訪問使節日記』）

 プレビューを閉じる  全画面モード

（教科書名入） p.252

## マカートニーの中国訪問記

YWH0503600

提供元：坂野正高訳『中国訪問使節日記』



アメリカ合衆国の風刺雑誌に掲載されたもの。



☒ 全画面モード

(教科書名入る) p.259

「白人の責務」への風刺画

YWHA706000

## フセイン・マクマホン協定 とバルフォア宣言



【プレビュー】もしくは  
【全画面モード】で  
閲覧できます。

(テキストファイル / 1.69KB)



プレビュー  全画面モード

(教科書名入る) p.299

フセイン・マクマホン協定とバルフォア宣言

YWH0503700  
提供元：歴史学研究会編『世界史料10』

## ○フセイン・マクマホン協定 (抜粋)

イギリスが同盟国であるフランスの利益を損なうことなしに自由に活動できる境界線内にある地域においては、私は英国政府の名の下で次のとおり保証および費責額への返答を与える権限を有しております。すなわち、

- (1) イギリスは一定の修正①を加えて、メッカのシャリーフ〔フセイン〕によって要求されている範囲内すべての地域におけるアラブ人の独立を認め、それを支援する用意がある。
- (2) イギリスは外国からのすべての侵略に対して聖地を守る。その不可侵性を承認する。
- (3) 状況が許せば、イギリスはアラブに助言を与え、これらのごまごまな地域におけるもっとも適切と思われる統治形態を設立する援助をおこなう。
- (4) 他方、アラブ側はイギリスの助言と指導を仰ぐことを決定し、健全なる統治形態の確立に必要なヨーロッパ人の顧問および官吏はイギリス人であることを承認する。……

(歴史学研究会編『世界史資料10』)

①地中海岸の一部の地域はアラブ独立国家から除外されるという修正。②エルサレムのこと。

## ○バルフォア宣言

私は国王陛下の政府を代表いたしまして、ユダヤ人シオニスト諸氏の大望に共感を示す以下の宣言を、閣議の同意を得て貴下にお伝えすることができて非常に悦ばしく思っております。


「国王陛下の政府はパレスチナにおいてユダヤ人のための民族的郷土 (National Home) を設立することを好ましいと考えており、この目的の達成を円滑にするために最善の努力をおこなうつもりです。また、パレスチナに現存する非ユダヤ人諸コミュニティの市民および信託者としての権利、ならびに他のあらゆる国でユダヤ人が享受している権利および政治的地位が侵害されることは決してなされることはない」と明確に理解されています。」

貴下がこの宣言をシオニスト連盟にお知らせいただけましたならば光栄に存じます。

アーサー・ワトソン＝バルフォア

(歴史学研究会編『世界史資料10』)

【解説】イギリスは、1915年のフセイン・マクマホン協定で戦勝後のアラブの独立を認めていたが、16年にはイギリス・フランス・ロシアの3国で秘密協定(サイクス・ピコ協定)を結び、オスマン帝国内のアラブ地域の分割を約していた。17年のロシア十月革命後、ソビエト政権がこの秘密協定の内容を暴露すると、アラブ人とユダヤ人の間で、とりわけアラブ人のイギリスに対する反感が高まった。一方、1917年のバルフォア宣言は様々な解釈の余地を残す文書であった。「ナショナル・ホーム(民族的郷土)」とはユダヤ人国家のことなのか、「非ユダヤ人諸コミュニティ」すなわち人口の大半を占めるイスラーム教徒やキリスト教徒のアラブ人の「政治的な地位」はどうか、などである。シオニストの側はこれを自分たちに有利になるように解釈した。イギリスは委任統治を始めると、ユダヤ人を優遇したが、こうした政策は、元々パレスチナに世にいたアラブ人の権利を侵害することになった。とりわけユダヤ人の移民が急増して入植社会が形成すると、アラブ人との対立が高まり、パレスチナの独立とユダヤ人移民の禁止、土地売却の禁止を求めるアラブ人は、1936年に大規模な反乱を起こした。イギリスは軍力を使って反乱を鎮圧したが、問題の根本的な解決には至らなかった。イギリスは1939年ドイトとの間接がせまる中、中東地域の安定をはかるために政策を転換した。新たな政策は、ユダヤ人移民を制限して土地の取得を規制し、ユダヤ人国家の建設を認めずパレスチナの将来的な独立を認めるというものであり、これはバルフォア宣言の事実上の撤回を意味していた。イギリスは、フセイン・マクマホン協定もバルフォア宣言も守らなかったのである。

 プレビューを開く

 ダウンロード

 全画面モード

(教科書名入る) p.299

## フセイン・マクマホン協定とバルフォア宣言

YWH0503700

提供元：歴史学研究会編『世界史資料10』

# ヤルタ協定



【プレビュー】もしくは  
【全画面モード】で  
閲覧できます。

(テキストファイル / 1.59KB)



プレビュー  全画面モード

(教科書名入る) p.312

ヤルタ協定

YWH0503800

提供元：歴史学研究会『世界史史料10』

## ヤルタ協定

ソヴィエト連邦、アメリカ合衆国およびイギリス三大国の指導者たちは、ドイツが降伏しヨーロッパにおける戦争が終結したのち、2ないし3カ月後にソヴィエト連邦が以下の条件により連合国の側に立って対日戦争に参加すべきことに合意した①。

第1条 外モンゴル（モンゴル人民共和国）の現状は維持される。

第2条 1904年の日本による脅威的攻撃によって侵害された旧ロシアの権利は回復されなければならない。すなわち、

- (a) 露サハリンおよび隣接地域はソヴィエト連邦に返還されるべきである。
- (b) 大連湾沿岸は国際化され、ソヴィエト連邦の機動的な利益が保障され、旅順口の租借権がソヴィエト社会主義共和国連邦の海軍基地として回復されなければならない。
- (c) 中東鉄道（東清鉄道）および大連への出口となる南滿洲鉄道は中ソ合併の会社によって共同で運営されなければならない。その際、ソヴィエト連邦の機動的な利益が保障され、中国が満洲における完全な主権を享受することとする。

第3条 クリル補島（千島列島）はソヴィエト連邦に引き渡されなければならない。

外モンゴルおよび上記の諸港湾、諸鉄道に関する合意は蒋介石大元帥の同意を必要とする。（フランクリン＝ローズヴェルト）合衆国大統領はスターリン元帥からの助言に基づいて同合意を得るための諸措置を講ずる。

三大国首脳は、日本の降伏後、ソヴィエト連邦のこうした諸要求が精査に供されるべきことに合意する。

ソヴィエト連邦の側からは、中国を日本の支配から解放する目的で同国に軍事力による援助を提供するため、ソヴィエト社会主義共和国連邦と中国の友好同盟条約を中国国民政府との間で締結する意向を表明する。

（歴史学研究会編『世界史史料10』）

①ヤルタ協定は1945年2月に成立したが、アメリカ合衆国から日本へ公表されたのは、終戦後の翌46年2月であった。

プレビューを閉じる  全画面モード

（教科書名入る）p.312

## ヤルタ協定

YWH0503800

提供元：歴史学研究会編『世界史史料10』

# 国際連合憲章



【プレビュー】もしくは  
【全画面モード】で  
閲覧できます。

(テキストファイル / 3.04KB)



プレビュー  全画面モード

(教科書名入る) p.314

国際連合憲章

YWH0503900  
提供元：防衛省・自衛隊HP

国際連合憲章（抜粋）

前文
われら連合国の人民は、われらの一生のうち二度まで言語に絶する悲劇を人類に与えた戦争の惨害から将来の世代を救い、基本的人権と人間の尊厳及び価値と男女及び大小各国の同権とに関する信念をあらためて確信し、正義と条約その他の国際法の源泉から生ずる義務の尊重とを維持することができる条件を確立し、一層大きな自由の中で社会的進歩と生活水準の向上とを促進すること並びに、このために、善悪を棄け、自づつ、善良な隣人として自ら平和に生活し、国際の平和及び安全を維持するためにわれらの力を合わせ、其の利益の場合を除く外は武力を用いぬことを原則の要旨を方法の約定によつて確保し、すべての人民の経済的及び社会的進歩を促進するために国際機構を用いることを決議して、これらの目的を達成するために、われらの努力を結束することに決定した。よつて、われらの各々の政府は、サン・フランシスコ市に会合し、全権委任状を示してそれが良好妥当であると認められた代表者を通じて、この国際連合憲章に同意したので、ここに国際連合という国際機構を設ける。

第1条
国際連合の目的は、次のとおりである。
1. 国際の平和及び安全を維持すること。そのために、平和に対する脅威の防止及び除去と侵略行為その他の平和の破壊の虞圧とのため有効な集団的措置（そち）をとること並びに平和を破壊するに至る虞（おそれ）のある国際的の紛争又は事態の調整又は解決を平和的手段によつて自づつ正義及び国際法の原則に従つて実現すること。
2. 人民の同権及び自決の原則の尊重を基礎におく諸国間の友好関係を発展させること並びに世界平和を強化するために他の適当な措置をとること。
3. 経済的、社会的、文化的又は人道的任務を有する国際問題を解決することについて、並びに人種、性、言語又は宗教による差別なくすべての者のために人権及び基本的自由を尊重するように助長奨励することについて、国際協力を達成すること。
4. これらの共通の目的の達成に向つて諸国の行動を調和するための中心となること。

第2条
この機構及びその加盟国は、第1条に掲げる目的を達成するに當つては、次の原則に従つて行動しなければならない。
1. この機構は、そのすべての加盟国の主権平等の原則に基礎を置いている。
2. すべての加盟国は、加盟国の地位から生ずる権利及び利益を加盟国のすべてに保障するために、この憲章に従つて負っている義務を誠実に履行（りこう）しなければならない。
3. すべての加盟国は、この国際紛争を平和的手段によつて国際の平和及び安全並びに正義を危くしないように解決しなければならない。
4. すべての加盟国は、その国際関係において、武力による威嚇（いかく）又は武力の行使を、いかなる国の領土保全又は政治的独立に対するものも、また、国際連合の目的と衝突しない他のいかなる方法によるものも採らなければならない。
5. すべての加盟国は、国際連合がこの憲章に従つてとるいかなる行動についても国際連合にあらゆる援助を奉ず、自づつ、国際連合の禁止行動又は強制行動の対象となつていかなる国に対しても援助の供与を供与してはならない。
6. この機構は、国際連合加盟国でない国が、国際の平和及び安全の維持に必要な限り、これらの原則に従つて行動することを確保しなければならない。
7. この憲章のいかなる規定も、本質上いづれかの国の国内管轄権内にある事項に干渉する権限を国際連合に与えるものではなく、また、その事項をこの憲章に基づく解決に付託することを加盟国に要求するものでもない。但し、この原則は、第七章に基く強制措置の適用を妨げるものではない。

(防衛省・自衛隊HP)

プレビューを閉じる 全画面モード

(教科書名入る) p.314

国際連合憲章

YWHDS03900
提供元：防衛省・自衛隊HP

# 世界人権宣言



【プレビュー】もしくは  
【全画面モード】で  
閲覧できます。

(テキストファイル / 2.5KB)



プレビュー  全画面モード

(教科書名) p.314

世界人権宣言

YWHDS04000  
提供元：外務省HP

## 世界人権宣言（仮訳文）

- 第1条  
すべての人間は、生れながらにして自由であり、かつ、尊厳と権利とについて平等である。人間は、理性と良心とを授けられており、互いに同胞の精神をもって行動しなければならない。
- 第2条  
1 すべて人は、人種、皮膚の色、性、言語、宗教、政治上その他の意見、国民的もしくは社会的出身、財産、門地その他の地位又はこれに類するいかなる事由による差別をも受けることなく、この宣言に掲げるすべての権利と自由とを享有することができる。  
2 さらに、個人に属する国又は地域が独立国である、信託統治地域である、非自治地域である、又は他のなんらかの主権制限の下にあることを問わず、その由又は地域の宗法上、書籍上又は国際上の地位に基づきいかなる差別もしてはならない。
- 第3条  
すべて人は、生命、自由及び身体の安全に対する権利を有する。
- 第4条  
何人も、奴隷にされ、又は苦役に駆使することはない。奴隷制度及び奴隷売買は、いかなる形においても禁止する。
- 第5条  
何人も、拷問又は残虐な、非人道的な若しくは屈辱的な取扱い若しくは刑罰を受けることはない。
- 第6条  
すべて人は、いかなる場所においても、法の下において、人として認められる権利を有する。
- 第7条  
すべて人は、法において平等であり、また、いかなる差別もなしに法の平等な保護を受ける権利を有する。すべて人は、この宣言に違反するいかなる差別に対しても、また、そのような差別をそのかすいかなる行為に対しても、平等な保護を受ける権利を有する。
- 第8条  
すべて人は、憲法又は法律によって与えられた基本的権利を侵害する行為に対し、権限を有する国内裁判所による効果的な救済を受ける権利を有する。
- 第9条  
何人も、ほしいままに逮捕、拘禁（こうきん）、又は追放されることはない。
- 第10条  
すべて人は、自己の権利及び義務並びに自己に対する刑事責任が決定されるに当っては、独立の公平な裁判所による公正な公開の審理を受けることについて完全に平等の権利を有する。
- 第11条  
1 刑事の訴訟を受けた者は、すべて、自己の弁護に必要なすべての保障を与えられた公開の裁判において法律に従って有罪の立証があるまでは、無罪と推定される権利を有する。  
2 何人も、実行の時に国内法又は国際法により犯罪を構成しなかった作為又は不作為のために有罪とされることはない。また、犯罪が認められた時に適用される刑罰より重い刑罰を課せられない。
- 第12条  
何人も、自己の私事、家族、家族若しくは通信に対して、ほしいままに干渉され、又は名譽及び信用に対して攻撃を受けることはない。人はすべて、このような干渉又は攻撃に対して法の保護を受ける権利を有する。
- 第13条  
1 すべて人は、各国の境界内において自由に移転及び居住する権利を有する。  
2 すべて人は、自国その他いずれの国をも立ち去り、及び自国に帰る権利を有する。

(外務省HP)

 プレビューを閉じる  全画面モード

(教科書名入る) p.314


世界人権宣言

YWHDS04000  
提供元：外務省HP

	基本用語解説	地域別年表	歴史資料	まとめの問い
-----------------------------------------------------------------------------------	--------	-------	------	--------

視点をかえて振り返る

## まとめの問い



第Ⅰ部    第Ⅱ部    第Ⅲ部

### 第Ⅰ部

## 諸地域の歴史的特質の形成

**【まとめの問い① (p.102)】**  
 古代国家の支配の仕組みは、それぞれの地域の経済や社会とどのような関わりがあったのだろうか。いくつか取り上げて、その特徴を考えてみよう。 ※自身で例をあげて、300字程度で説明してみよう。

**解答例**

ここでは、「古代の社会と国家」で述べられているオリエントや東アジア以外の例として、中央ユーラシアの遊牧国家を取り上げる。広大な草原が連なる中央ユーラシアでは、前9世紀頃以降、騎馬遊牧民が登場して活動した。彼らの生業は家畜とともに移動する遊牧や馬を利用する狩猟であり、また、その社会は氏族やそれを束ねた部族を基盤としていた。彼らは、統率力のある君主が現れると部族連合を組んで遊牧国家を形成し、そこでは十進法に従った騎馬軍団が編制された。馬の機動力や騎射の技術にもとづくその軍力は周辺の諸勢力を圧倒し、ときに草原地帯の南方に点在するオアシス都市を支配下において、その資源や東西交易の利益を確保した。しかし、軍団の統率が失われると部族連合の再編がおり、遊牧国家は興亡を繰り返した。

**【発展問題①】**  
 「第Ⅰ部まとめ」の「古代の社会と国家」で見たように、古代に成立した様々な国家を比較して考える視点の一つに「古代帝国」があり、それぞれの地域社会がたどった歴史的展開の差異

	基本用語解説	地域別年表	歴史資料	まとめの問い
--	--------	-------	------	--------

詳説世界史  
章ごとに探す

世界史へのまなざし   第Ⅰ部   第Ⅱ部   第Ⅲ部   第Ⅳ部

世界史へのまなざし

基本用語解説	地域別年表	歴史資料
--------	-------	------

別紙 1-2 へ

第Ⅰ部  
諸地域の歴史的特質の形成

第Ⅰ部を学ぶ前に

基本用語解説	地域別年表	歴史資料
--------	-------	------

第1章 文明の成立と古代文明の特質

1文明の誕生

基本用語解説	地域別年表	歴史資料
--------	-------	------

2古代オリエント文明とその周辺

基本用語解説	地域別年表	歴史資料
--------	-------	------

別紙 1-1 へ

別紙 1-3 へ

## 利用規約

本サイトのコンテンツは、教科書または副教材の参考教材として **会社名掲載** (以下当社という) が用意したものです。学校内での授業や自宅学習などの用途以外での利用はご遠慮ください。

### 著作権について

本サイトおよびリンク先のサイトに掲載されているコンテンツ (文章、写真、図表、画像、音声、映像など) の著作権および著作者人格権は、当社または各コンテンツの権利者に帰属しています。これらのコンテンツの複製、改変、公衆送信 (送信可能化を含む。)、上映、頒布 (譲渡・貸与)、翻案、翻訳などは、著作権法で認められる場合を除き、当社および各コンテンツの権利者から事前の許諾を得ることなく行うことはできません。また、(許可のない) 本サイトへのリンクについてはご遠慮ください。

### 免責事項

当社は、本サイトの内容に関して、その正確性、および利用者のいかなる利用目的への適合性・妥当性について保証するものではありません。また、当社および他の著作者・制作者は、本サイトに関し、利用者に生じた、損害、損失、請求その他の責任についても一切責任を負いません。

### その他

本サイトは、事前に通知することなく、本サービスの内容を変更または終了することがあります。本サイトにおいて外部サイトへのリンクを掲載することがありますが、当社はリンク先の外部サイトの内容等には責任を負いません。

また、本サイトの利用に際してコンテンツ使用料は発生しませんが、通信料がかかります。

本サイトを利用することで、上記について確認し同意したものとみなします。

**会社名掲載**

**コピーライト掲載**

世界史へのまなざし		第Ⅰ部	第Ⅱ部	第Ⅲ部	第Ⅳ部
<b>第1章</b>	<b>文明の成立と古代文明の特質</b>				
<b>1文明の誕生</b>					
	基本用語解説	地域別年表		歴史資料	
<b>2古代オリエント文明とその周辺</b>					
	基本用語解説	地域別年表		歴史資料	
<b>3南アジアの古代文明</b>					
	基本用語解説	地域別年表		歴史資料	
<b>4中国の古代文明</b>					
	基本用語解説	地域別年表		歴史資料	
<b>5南北アメリカ文明</b>					
	基本用語解説	地域別年表		歴史資料	
<b>第2章</b>	<b>中央ユーラシアと東アジア世界</b>				
<b>1中央ユーラシアー草原とオアシスの世界</b>					
	基本用語解説	地域別年表		歴史資料	
<b>2秦・漢帝国</b>					
	基本用語解説	地域別年表		歴史資料	
<b>3中国の動乱と変容</b>					

世界史へのまなざし

第Ⅰ部

第Ⅱ部

第Ⅲ部

第Ⅳ部

**第2章 中央ユーラシアと東アジア世界****1 中央ユーラシア—草原とオアシスの世界**

基本用語解説

地域別年表

歴史資料

**2 秦・漢帝国**

基本用語解説

地域別年表

歴史資料

**3 中国の動乱と変容**

基本用語解説

地域別年表

歴史資料

**4 東アジア文化圏の形成**

基本用語解説

地域別年表

歴史資料

**第3章 南アジア世界と東南アジア世界の展開****1 仏教の成立と南アジアの統一国家**

基本用語解説

地域別年表

歴史資料

**2 インド古典文化とヒンドゥー教の定着**

基本用語解説

地域別年表

歴史資料

**3 東南アジア世界の形成と展開**

基本用語解説

地域別年表

歴史資料

**第3章** 南アジア世界と東南アジア世界の展開

## 1 仏教の成立と南アジアの統一国家

基本用語解説

地域別年表

歴史資料

## 2 インド古典文化とヒンドゥー教の定着

基本用語解説

地域別年表

歴史資料

## 3 東南アジア世界の形成と展開

基本用語解説

地域別年表

歴史資料

**第4章** 西アジアと地中海周辺の国家形成

## 1 イラン諸国家の興亡とイラン文明

基本用語解説

地域別年表

歴史資料

## 2 ギリシア人の都市国家

基本用語解説

地域別年表

歴史資料

## 3 ローマと地中海支配

基本用語解説

地域別年表

歴史資料

## 4 キリスト教の成立と発展

基本用語解説

地域別年表

歴史資料

世界史へのまなざし

第Ⅰ部

第Ⅱ部

第Ⅲ部

第Ⅳ部

**第4章** 西アジアと地中海周辺の国家形成

## 1 イラン諸国家の興亡とイラン文明

基本用語解説

地域別年表

歴史資料

## 2 ギリシア人の都市国家

基本用語解説

地域別年表

歴史資料

## 3 ローマと地中海支配

基本用語解説

地域別年表

歴史資料

## 4 キリスト教の成立と発展

基本用語解説

地域別年表

歴史資料

**第5章** イスラーム教の成立とヨーロッパ世界の形成

## 1 イスラーム教とイスラーム政権の成立

基本用語解説

地域別年表

歴史資料

## 2 ヨーロッパ世界の形成

基本用語解説

地域別年表

歴史資料

第Ⅱ部

世界史へのまなざし

第Ⅰ部

第Ⅱ部

第Ⅲ部

第Ⅳ部

**第5章** イスラーム教の成立とヨーロッパ世界の形成

## 1 イスラーム教とイスラーム政権の成立

基本用語解説

地域別年表

歴史資料

## 2 ヨーロッパ世界の形成

基本用語解説

地域別年表

歴史資料

## 第Ⅱ部

### 諸地域の交流・再編

## 第Ⅱ部を学ぶ前に

基本用語解説

地域別年表

歴史資料

**第6章** イスラーム教の伝播と西アジアの動向

## 1 イスラーム教の諸地域への伝播

基本用語解説

地域別年表

歴史資料

## 2 西アジアのイスラーム諸政権

基本用語解説

地域別年表

歴史資料

	基本用語解説	地域別年表	歴史資料	まとめの問い
-----------------------------------------------------------------------------------	--------	-------	------	--------

視点をかえて振り返る

## まとめの問い



第Ⅰ部    第Ⅱ部    第Ⅲ部

**第Ⅰ部**

### 諸地域の歴史的特質の形成

**【まとめの問い① (p.102)】**

古代国家の支配の仕組みは、それぞれの地域の経済や社会とどのような関わりがあったのだろうか。いくつか取り上げて、その特徴を考えてみよう。 ※自身で例をあげて、300字程度で説明してみよう。

**解答例**

ここでは、「古代の社会と国家」で述べられているオリエントや東アジア以外の例として、中央ユーラシアの遊牧国家を取り上げる。広大な草原が連なる中央ユーラシアでは、前9世紀頃以降、騎馬遊牧民が登場して活動した。彼らの生業は家畜とともに移動する遊牧や馬を利用する狩猟であり、また、その社会は氏族やそれを束ねた部族を基盤としていた。彼らは、統率力のある君主が現れると部族連合を組んで遊牧国家を形成し、そこでは十進法に従った騎馬軍団が編制された。馬の機動力や騎射の技術にもとづくその軍事力は周辺の諸勢力を圧倒し、ときに草原地帯の南方に点在するオアシス都市を支配下において、その資源や東西交易の利益を確保した。しかし、軍団の統率が失われると部族連合の再編がおり、遊牧国家は興亡を繰り返した。

**【発展問題①】**

「第Ⅰ部まとめ」の「古代の社会と国家」で見たように、古代に成立した様々な国家を比較して考える視点の一つに「古代帝国」があり、それぞれの地域社会がたどった歴史的展開の差異

世界史へのまなざし

第Ⅰ部

第Ⅱ部

第Ⅲ部

第Ⅳ部

**第6章** イスラーム教の伝播と西アジアの動向**1** イスラーム教の諸地域への伝播

基本用語解説

地域別年表

歴史資料

**2** 西アジアのイスラーム諸政権

基本用語解説

地域別年表

歴史資料

**第7章** ヨーロッパ世界の変容と展開**1** 西ヨーロッパの封建社会とその展開

基本用語解説

地域別年表

歴史資料

**2** 東ヨーロッパ世界の展開

基本用語解説

地域別年表

歴史資料

**3** 西ヨーロッパ世界の変容

基本用語解説

地域別年表

歴史資料

**4** 西ヨーロッパの中世文化

基本用語解説

地域別年表

歴史資料

**第8章** 東アジア世界の展開とモンゴル帝国**1** アジア諸地域の自立化と宋

**第7章** ヨーロッパ世界の変容と展開**1** 西ヨーロッパの封建社会とその展開

基本用語解説

地域別年表

歴史資料

**2** 東ヨーロッパ世界の展開

基本用語解説

地域別年表

歴史資料

**3** 西ヨーロッパ世界の変容

基本用語解説

地域別年表

歴史資料

**4** 西ヨーロッパの中世文化

基本用語解説

地域別年表

歴史資料

**第8章** 東アジア世界の展開とモンゴル帝国**1** アジア諸地域の自立化と宋

基本用語解説

地域別年表

歴史資料

**2** モンゴルの大帝国

基本用語解説

地域別年表

歴史資料

**第9章** 大交易・大交流の時代**1** アジア交易世界の興隆

**第8章** 東アジア世界の展開とモンゴル帝国**1** アジア諸地域の自立化と宋

基本用語解説

地域別年表

歴史資料

**2** モンゴルの大帝国

基本用語解説

地域別年表

歴史資料

**第9章** 大交易・大交流の時代**1** アジア交易世界の興隆

基本用語解説

地域別年表

歴史資料

**2** ヨーロッパの海洋進出とアメリカ大陸の変容

基本用語解説

地域別年表

歴史資料

**第10章** アジア諸帝国の繁栄**1** オスマン帝国とサファヴィー朝

基本用語解説

地域別年表

歴史資料

**2** ムガル帝国の興隆

基本用語解説

地域別年表

歴史資料

**3** 清代の中国と隣接諸地域

世界史へのまなざし		第Ⅰ部	第Ⅱ部	第Ⅲ部	第Ⅳ部
<b>第9章</b>	<b>大交易・大交流の時代</b>				
<b>1 アジア交易世界の興隆</b>					
	基本用語解説	地域別年表		歴史資料	
<b>2 ヨーロッパの海洋進出とアメリカ大陸の変容</b>					
	基本用語解説	地域別年表		歴史資料	
<b>第10章</b>	<b>アジア諸帝国の繁栄</b>				
<b>1 オスマン帝国とサファヴィー朝</b>					
	基本用語解説	地域別年表		歴史資料	
<b>2 ムガル帝国の興隆</b>					
	基本用語解説	地域別年表		歴史資料	
<b>3 清代の中国と隣接諸地域</b>					
	基本用語解説	地域別年表		歴史資料	
<b>第11章</b>	<b>近世ヨーロッパ世界の動向</b>				
<b>1 ルネサンス</b>					
	基本用語解説	地域別年表		歴史資料	
<b>2 宗教改革</b>					

世界史へのまなざし		第Ⅰ部	第Ⅱ部	第Ⅲ部	第Ⅳ部
<b>第10章</b>	<b>アジア諸帝国の繁栄</b>				
<b>1 オスマン帝国とサファヴィー朝</b>					
	基本用語解説	地域別年表		歴史資料	
<b>2 ムガル帝国の興隆</b>					
	基本用語解説	地域別年表		歴史資料	
<b>3 清代の中国と隣接諸地域</b>					
	基本用語解説	地域別年表		歴史資料	
<b>第11章</b>	<b>近世ヨーロッパ世界の動向</b>				
<b>1 ルネサンス</b>					
	基本用語解説	地域別年表		歴史資料	
<b>2 宗教改革</b>					
	基本用語解説	地域別年表		歴史資料	
<b>3 主権国家体制の成立</b>					
	基本用語解説	地域別年表		歴史資料	
<b>4 オランダ・イギリス・フランスの台頭</b>					
	基本用語解説	地域別年表		歴史資料	
<b>5 北欧・東欧の動向</b>					

**第11章 近世ヨーロッパ世界の動向**

**1ルネサンス**

基本用語解説	地域別年表	歴史資料
--------	-------	------

**2宗教改革**

基本用語解説	地域別年表	歴史資料
--------	-------	------

**3主権国家体制の成立**

基本用語解説	地域別年表	歴史資料
--------	-------	------

**4オランダ・イギリス・フランスの台頭**

基本用語解説	地域別年表	歴史資料
--------	-------	------

**5北欧・東欧の動向**

基本用語解説	地域別年表	歴史資料
--------	-------	------

**6科学革命と啓蒙思想**

基本用語解説	地域別年表	歴史資料
--------	-------	------

**第Ⅲ部  
諸地域の結合・変容**

## 第Ⅱ部

## 諸地域の交流・再編

## 【まとめの問い① (p.202)】

古代国家の解体後、広域的な交流は活発化したが、各時代でそれぞれどのような特徴があったのだろうか。地理的範囲、交流の内容、担い手などの観点から比較してみよう。 ※自身で例をあげて、300字程度で説明してみよう。

## 解答例

ここでは、およそ8世紀頃から16世紀頃までの東西交易を例として、各時代の特徴を比較する。8世紀以降、広大なイスラーム政権の成立を背景に、ムスリム商人が東西のインド洋交易で活発な活動を展開した。さらに東方では、9世紀以降、唐の朝貢貿易の後退や民間交易の活発化を背景として中国商人も海上進出に乗り出し、海路による東西交易が発達した。13世紀には、ユーラシアの東西にまたがるモンゴル帝国が成立し、帝国全土を覆う駅伝制が整備された。また、元朝が南宋を滅ぼして江南地方をその商業圏に組み込んだことで、陸路・海路の交易網が結合された。15世紀以降に海洋進出を本格化させたヨーロッパ勢力は、こうしたユーラシアの交易網への参入をはかった。一方、彼らはアメリカ大陸に到達し、新たに「大西洋世界」を交易網の一角に組み込んだ。

## 【発展問題①】

「第Ⅱ部まとめ」の「交流圏の拡大」で見たように、古代国家の解体後、諸地域に新しい制度や理念をもつ国家や社会が形成され、これらの地域の文化交流も活発化した。これを促進した要因にイスラーム勢力の拡大がある。12世紀に西ヨーロッパでおこった文化の復興運動や、13世紀以降に南アジアで誕生したインド=イスラーム文化では、彼らの翻訳活動が大きな役割をはたした。具体的な言語名をあげながら、その経緯を200字程度で説明してみよう。

## 【発展問題②】

「第Ⅱ部まとめ」の「交流圏の拡大」で見たように、13世紀のモンゴル帝国の拡大により東西

**第12章** 産業革命と環大西洋革命**1産業革命**

基本用語解説

地域別年表

歴史資料

**2アメリカ合衆国の独立と発展**

基本用語解説

地域別年表

歴史資料

**3フランス革命とナポレオンの支配**

基本用語解説

地域別年表

歴史資料

**4環大西洋革命とラテンアメリカ諸国の独立**

基本用語解説

地域別年表

歴史資料

**第13章** イギリスの優位と欧米国民国家の形成**1ウィーン体制とヨーロッパの政治・社会の変動**

基本用語解説

地域別年表

歴史資料

**2列強体制の動揺とヨーロッパの再編成**

基本用語解説

地域別年表

歴史資料

**3アメリカ合衆国の発展**

基本用語解説

地域別年表

歴史資料

**第13章** イギリスの優位と欧米国民国家の形成**1**ウィーン体制とヨーロッパの政治・社会の変動

基本用語解説

地域別年表

歴史資料

**2**列強体制の動揺とヨーロッパの再編成

基本用語解説

地域別年表

歴史資料

**3**アメリカ合衆国の発展

基本用語解説

地域別年表

歴史資料

**4**19世紀欧米文化の展開と市民文化の繁栄

基本用語解説

地域別年表

歴史資料

**第14章** アジア諸地域の動揺**1**西アジア地域の変容

基本用語解説

地域別年表

歴史資料

**2**南アジア・東南アジアの植民地化

基本用語解説

地域別年表

歴史資料

**3**東アジアの激動

基本用語解説

地域別年表

歴史資料

**第14章** アジア諸地域の動揺**1** 西アジア地域の変容

基本用語解説

地域別年表

歴史資料

**2** 南アジア・東南アジアの植民地化

基本用語解説

地域別年表

歴史資料

**3** 東アジアの激動

基本用語解説

地域別年表

歴史資料

**第15章** 帝国主義とアジアの民族運動**1** 第2次産業革命と帝国主義

基本用語解説

地域別年表

歴史資料

**2** 列強の世界分割と列強体制の二分化

基本用語解説

地域別年表

歴史資料

**3** アジア諸国の変革と民族運動

基本用語解説

地域別年表

歴史資料

**第16章** 第一次世界大戦と世界の変容**1** 第一次世界大戦とロシア革命

**第15章** 帝国主義とアジアの民族運動**1** 第2次産業革命と帝国主義

基本用語解説

地域別年表

歴史資料

**2** 列強の世界分割と列強体制の二分化

基本用語解説

地域別年表

歴史資料

**3** アジア諸国の変革と民族運動

基本用語解説

地域別年表

歴史資料

**第16章** 第一次世界大戦と世界の変容**1** 第一次世界大戦とロシア革命

基本用語解説

地域別年表

歴史資料

**2** ヴェルサイユ体制下の欧米諸国

基本用語解説

地域別年表

歴史資料

**3** アジア・アフリカ地域の民族運動

基本用語解説

地域別年表

歴史資料

**第17章** 第二次世界大戦と新国際秩序の形成**1** 世界恐慌とヴェルサイユ体制の破壊

**第16章 第一次世界大戦と世界の変容****1 第一次世界大戦とロシア革命**

基本用語解説

地域別年表

歴史資料

**2 ヴェルサイユ体制下の欧米諸国**

基本用語解説

地域別年表

歴史資料

**3 アジア・アフリカ地域の民族運動**

基本用語解説

地域別年表

歴史資料

**第17章 第二次世界大戦と新国際秩序の形成****1 世界恐慌とヴェルサイユ体制の破壊**

基本用語解説

地域別年表

歴史資料

**2 第二次世界大戦**

基本用語解説

地域別年表

歴史資料

**3 新国際秩序の形成**

基本用語解説

地域別年表

歴史資料

世界史へのまなざし

第Ⅰ部

第Ⅱ部

第Ⅲ部

第Ⅳ部

**第17章** 第二次世界大戦と新国際秩序の形成

## 1 世界恐慌とヴェルサイユ体制の破壊

基本用語解説

地域別年表

歴史資料

## 2 第二次世界大戦

基本用語解説

地域別年表

歴史資料

## 3 新国際秩序の形成

基本用語解説

地域別年表

歴史資料

第Ⅳ部  
地球世界の課題

**第18章** 冷戦と第三世界の台頭

## 1 冷戦の展開

基本用語解説

地域別年表

歴史資料

## 2 第三世界の台頭とキューバ危機

基本用語解説

地域別年表

歴史資料

## 3 冷戦体制の動揺

基本用語解説

地域別年表

歴史資料

### 第Ⅲ部 諸地域の結合・変容

#### 【まとめの問い① (p.322)】

「世界の一体化」が進行するなかで、ヨーロッパ優位の世界構造はどのように成立していったのだろうか。重要な画期となるできごとをあげてみよう。 ※自身で例をあげて、300字程度で説明してみよう。

#### 解答例

ここでは、産業革命を画期ととらえて、ヨーロッパ優位の世界構造が成立していく過程を考える。アジアとの交易や新大陸も含めた大西洋地域の三角貿易など、地域間の大規模なモノの取り引きが活発になると、イギリスでは綿織物の需要が増大し、それにもなって綿工業分野から産業革命が始まった。イギリスは従来インドをはじめとするアジアから綿製品を輸入していたが、産業革命で綿製品の大量生産が可能になった結果、インドを輸出市場とするとともに、その植民地化を進めていった。さらに、イギリスは植民地化を進めた地域以外にも、貿易協定や不平等条約の締結などを通じて、またときには武力に訴えて経済的な進出を果たし、みずからに優位な構造を強制した。進出を受けた側も、対価となる商品の生産に特化するなど、世界経済に組み込まれた。

#### 【発展問題①】

「第Ⅲ部まとめ」の「ヨーロッパの主導による世界の一体化」で見たように、19世紀に入ってヨーロッパ諸国の軍事・経済的な進出によってアジア諸地域では従属化・植民地化が進む一方、これに対抗あるいは適応するかたちで改革の動きも生まれた。そのうち、19世紀後半の清朝で試みられた改革の動きを200字程度で説明してみよう。

#### 【発展問題②】

「第Ⅲ部まとめ」の「ヨーロッパの主導による世界の一体化」で見たように、フランス革命で生まれた国民国家という国のあり方は、その後に世界の諸地域へと広がっていった。19世紀後

**第18章** 冷戦と第三世界の台頭**1冷戦の展開**

基本用語解説

地域別年表

歴史資料

**2第三世界の台頭とキューバ危機**

基本用語解説

地域別年表

歴史資料

**3冷戦体制の動揺**

基本用語解説

地域別年表

歴史資料

**第19章** 冷戦の終結と今日の世界**1産業構造の変容**

基本用語解説

地域別年表

歴史資料

**2冷戦の終結**

基本用語解説

地域別年表

歴史資料

**3今日の世界**

基本用語解説

地域別年表

歴史資料

**4現代文明の諸相**

基本用語解説

地域別年表

歴史資料

世界史へのまなざし	第Ⅰ部	第Ⅱ部	第Ⅲ部	第Ⅳ部
<b>1 冷戦の展開</b>				
基本用語解説	地域別年表	歴史資料		
<b>2 第三世界の台頭とキューバ危機</b>				
基本用語解説	地域別年表	歴史資料		
<b>3 冷戦体制の動揺</b>				
基本用語解説	地域別年表	歴史資料		
<b>第19章</b>	<b>冷戦の終結と今日の世界</b>			
<b>1 産業構造の変容</b>				
基本用語解説	地域別年表	歴史資料		
<b>2 冷戦の終結</b>				
基本用語解説	地域別年表	歴史資料		
<b>3 今日の世界</b>				
基本用語解説	地域別年表	歴史資料		
<b>4 現代文明の諸相</b>				
基本用語解説	地域別年表	歴史資料		